FX 外国為替

資産運用会議 特別号 vol.1

かぶカブキ & Kou 編

絶望からの復活を経験した元証券マンのファンダだけで株を攻略する手がかり

聞き手◉鹿内武蔵　本文◉諸田裕己

元証券マンで現在は個人投資家として活躍しているかぶカブキさんに、自身の失敗と成功の経験から読者に伝えたい勝つために大切なことをお聞きしました。現在の投資スタイルの根幹にもなっている、企業の業績を見て利益につなげる考え方についてもお話しいただきました。

AMENTALS

勉強になったのはディーラーよりも営業

――まずはかぶカブキさんがどんな投資の経験をしてきたのか、これまでの経歴をお聞かせください。

かぶカブキ　大学生時代に三菱自動車の株を初めて買ったのですが、その当時はほとんど動かなかったので、こんなものかという感じでした。再燃し始めたのは今から8年前ぐらいに、株式取引の上手な人から教えてもらう機会があって、そこからまた頑張ってみようと再スタートしました。数年で資産を数百倍にした人で、どうすれば短期で資産を増やせるかの考え方を教わっていました。

最初はその人が教えてくれるままに買ってうまくいってたので、どんどん株式投資の魅力に惹かれていきました。ですが、その人の主張や方法がうまくいかなくなっていき、次第に自分も負けていきました。そこから自分でもしっかり勉強するしかないと思い立ち、証券会社に入社したんです。

――個人投資家としての株取引をやめて、証券会社の従業員として投資を学ぼうと思ったんですね。証券会社でのお仕事は、投資の勉強になるんですか？

かぶカブキ　最初の仕事が、日本株を売買するディーリング業務でした。上がったら買い、下がったら売るを繰り返し、その日のうちに決済する短期売買に近い取引は、自分の性格とは相性が良くなくてほとんど勉強にならなかったです。

その後にコミュニケーション能力を見込まれて、ディーリング部門から営業に異動してからがすごく勉強になりま





ONLY FUND

した。営業として多くのお客さまと対話をしたことで、取引がうまい人とうまくない人の二極化を感じたんです。利益を出せる人たち、あるいは損失が多い人たちの特徴が見えてきて、すごく勉強になりましたね。

――どんな特徴なのか少し教えていただけますか？

かぶカブキ　大きな特徴の一つは、ファンダメンタルズをよく理解しているかどうかです。投資にはどうしても不確実な要素がたくさんあるのですが、しっかり調査してその不確実性を減らしていく。売買の根拠を限りなく確信に近づけて取引できる人が、大きく資産を増やしています。もう一つは、売買の根拠が分かっていても利確が早すぎると儲からないので、利を伸ばしている、損小利大を実践できていることが共通点です。

証券会社で営業を経験してからは、勝つ人の特徴を参考に、負ける人の特徴を矯正していくことで成績が良くなりました。資産を推移グラフで見ると、元手94万円で再スタートして今は5000万円以上です。手法が安定している現在は結果もしっかり出ていて、1000万円を超えてからは資産が急激に伸びるようになりました。

企業の決算を見て買う王道の投資スタイル

――今のかぶカブキさんはどんな売買スタイルなのでしょうか？

Profile

爆上げ銘柄分析のかぶカブキ
証券会社の元プロトレーダー。投資歴は証券会社と個人で約15年。2019年7月より個人運用を始め、1年9か月で原資を約17倍に増加させる。証券会社で培ったプロ経験を生かした手法で、2倍以上になる小型銘柄を見つけるのが得意。株式投資初心者の人でもステップアップできるような、実践に役立つ有料級の日本株情報を発信中。

Web

X（旧Twitter）：@kabu_kabuki
Camp-fire：https://community.camp-fire.jp/projects/view/422225





絶望からの復活を経験した元証券マンのファンダだけで株を攻略する手がかり

「小型株を中心に、2倍、3倍になってくれそうな銘柄を保有して利益を伸ばすやり方が多いです」

かぶカブキ　株価が上がっていく要素が多い銘柄を買って、バイ・アンド・ホールドが基本です。小型株を中心に、2倍、3倍になってくれそうな銘柄を保有して利益を伸ばすやり方が多いです。買う銘柄の判断は、企業の決算を最も重視しています。なぜ決算が良かったか仮説を立ててその背景なども調べ、株価がまだ上がってないと思えばその銘柄を買い、次の決算まで持っておく。決算が取引の軸になるスタイルです。

――大きく成長する銘柄を狙って利益を伸ばしていくと。どれくらいの期間保有しているのでしょうか。

かぶカブキ　大体3～4か月で売却することが多いです。早いと1週間ぐらいしか持たないこともありますし、長くても1年です。想定よりも伸びていかなかった場合には、損切りしています。株式のトレーダー全体で見れば、中期保有ぐらいですね。配当があれば手放す理由はない、買ったら一生持つ、という投資家もいますから。

――証券会社勤務の経験以外に、どんな勉強をされて今の勝てるスタイルにたどり着いたのでしょう？

かぶカブキ　基本的には株式取引なので決算を中心に見ています。良好な決算、良い数字を出している企業について調べることを徹底しています。

初心者時代は自分でも何をすればうまくいくのかが分かっていなかったので、本当に迷走していました。チャート分析の勉強もしましたし、SNSを見て取引のうまい人が注目している銘柄やその判断材料を追いかけたりしました。いろいろな勉強をしたのですが、結局勝てませんでした。

そこからは自分に合わないと思ったことは全部捨てて、ファンダメンタルズの基本となる企業業績の変化や向上にのみ焦点を当てるスタイルに変えたんです。

――テクニカル分析や短期売買ではなく、中長期で見て業績が良い企業を買う、利益を出している企業は株価も上がる。株式投資の王道ですね。

かぶカブキ　企業の業績が上がる要因には背景があるんですよ。例えば、飲食店の鳥貴族は月間での売上高が前年比43％増と絶好調の業績を出していました。これはコロナ禍が終わった後の今年5月ごろからの外国人への水際対策終了がきっかけです。外国人旅行者が日本に多く訪れるようになりインバウンド需要が増えた結果、飲食店の業績が良くなっていたことが要因の一つに挙げられます。

世の中の動きにはいろいろな因果関係があって、単に業績が良いから、新製品の発売や新サービスが出るからその企業の株を買うのではなく、その背景に何があるかを考えることで買うべき銘柄が見えてきます。

――そうしたシナリオを仮説として立てて、どこが儲かるかを考える思考こそが大事なんですね。

かぶカブキ　先ほどの例でいえば、インバウンドは飲食店の好調に影響したといいましたが、外国人旅行者がたくさん訪れたことはホテルや鉄道会社、他の業界にも良い影響が出るだろうと



「やはり決算書が重要。そして業績の中身とその業績が伸びた背景を知ることが大切です」

いう仮説を立てることもできます。それを念頭に入れて、自動車、船、食品などあらゆる業界を対象に情報収集をすることで、企業の業績が上昇する背景も見えてくると思います。

自分の経験を伝えて誰かの手がかりに

――現在、かぶカブキさんは投資についての情報発信や教育の活動も行われていますよね。

かぶカブキ　昔は人にいわれるまま投資をして失敗し、投資の勉強も仕事も最初はうまくいかなくて、お金も全然なかったんです。失敗ばかりの人生でしたけど、株にのめり込むようになったことで資産がどんどん増えていき、絶望した状態から復活できた経験をしました。こうした経験をもがいていた昔の自分に教えたい気持ちを原動力に、現在似た境遇の人たちにとって何か手がかりになればと思い活動をしています。

――最近では執筆もされて8月に書籍が発売されています。内容的には自身の経験や取引スタンスが反映されているのでしょうか？

かぶカブキ　短い期間でも安全に資産を増加させるための考え方が中心です。チャート分析だけじゃなく、どちらかというとファンダメンタルズの基礎と応用、その変化を見ることが大事という内容で書いた本です。

株式投資では、短期的に資産を増やすことが目的でも、長期的に10倍株や50倍株を狙う場合でも、やはり決算書が重要。そして業績の中身とその業績が伸びた背景を知ることが大切です。その背景から企業の上向きが継続するかどうかを判断することで、さらに利益が伸ばせますから。

株を始めたい、勉強したいと思うFXトレーダーの方にもお役に立てると思います。株式はFXにはない企業の業績が大切な判断材料となります。株価への影響も大きいので、業績の見方や考え方が分からないという初心者のお役に立てれば幸いです。

――FXで成功したトレーダーであれば、他の金融市場にも積極的に投資していきたいと、株式に注目する人も多いですからね。素朴な疑問ですが、決算書は誰にでも公開されている情報にもかかわらず、見る人によって出せる利益の差が開くのはなぜでしょうか？

かぶカブキ　まず個人投資家の皆さんは会社に勤めている人が多いので、決算書の内容を精査する時間が十分に取れていないことが考えられます。表面的に決算を見て銘柄をホールドしてるだけの人も多いんですよ。二つ目は業績内容やその背景が取引の判断とリンクできていないことです。

この二つが解消できれば、水面下で起こっていることを見て、株価が少しずつ動き出す早いタイミングで買うことができます。初心者の場合、株価が大きく動いて盛り上がったときに買ってしまう人が多いですが、それだと今後も向上する背景の余地がなければ、利益は伸ばせません。情報をリンクさせて先を予想して、動き始める前に乗っておくことが大事です。

――今後かぶカブキさんが挑戦したいことはありますか？

かぶカブキ　金融・投資に関する知識をもっと学び、助言業の資格を取って投資スクールを作ることを次のステップとして考えています。今のままでは投資に関する教育や指導は厳しく制限された範囲でしかできません。なかなか難しい目標ですが、しっかり勉強して挑戦していきたいと思っています。

――最後に読者に向けてメッセージをお願いします。

かぶカブキ　投資はとにかく継続することが大事です。長く続ければこそ、分かってくることも多いし、資産をより大きく増やせます。相場から退場しないように投資を継続することが理想です。

僕が最初に投資で失敗したように、性格的に向いていない取引スタイルに負け続けるまでこだわるのはよくありません。うまくいかなければ、思い切った転換を考えることも大事にしてみてください。

インタビュー日◎2023年9月20日

チャート極め道①
How to Technical

上位足の流れに沿ったレンジブレイク手法



Kou

王道のテクニカルで相場状況を把握

聞き手◉鹿内武蔵／本文◉落合彰

Profile

医療系の物理学者でもある兼業トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

Twitter:@BassistFX_Kou　Blog:https://fxshuhou.com/

医療機関で物理学者をする傍ら、FXの手法研究家としても精力的に活動している兼業トレーダーのKouさんに、ボリンジャーバンドを使ったレンジのブレイクアウト手法を教えていただいた。

「FXで長期的にプラス収支を築くには、手法を極力シンプルにすることが大切だと考えています。今回は、上位足で大きな流れをつかみ、その流れに沿って下位足でトレードするオーソドックスな手法を紹介します」

とKouさん。まずは使用するテクニカルについて解説していただいた。

「相場の方向感を見るのにボリンジャーバンドを使います。期間は20で、表示するバンドは±1σと±2σの2本です。ごくごく標準的な設定ですが、多くの人が利用する設定ほどテクニカル指標は効きやすく、安定して使えると思います。

ボリンジャーバンドは傾きが出ているかどうかが重要で、右肩上がりなら上昇トレンド、右肩下がりなら下降トレンドと判断できます。私は4時間足のボリンジャーバンドで大きな流れを見るようにしていて、例えばバンドが右肩上がりで上昇トレンドを示唆している状態なら、下位足でそのトレンドをフォローすれば利益を伸ばしやすいです。

また、ダウ理論の考え方をベースにしており、高値・安値の切り上げ、切り下げも確認します。高値・安値が共に切り上がっていてボリンジャーバンドが右肩上がりなら、その上昇の流れに沿って下位足で押し目を狙い、高値・安値が共に切り下がっていてボリンジャーバンドが



Kou

上位足の流れに沿ったレンジブレイク手法

この手法で使用するテクニカル指標

ボリンジャーバンド

Bollinger bands



ボリンジャーバンドは、統計学の標準偏差の考え方を取り入れたテクニカル指標で、相場のトレンドやボラティリティを読み取るのに利用される。トレンドの有無は、ボリンジャーバンドの傾きを見ることで把握可能。右肩上がりなら上昇トレンド、右肩下がりなら下降トレンド、横ばいならトレンドレスと判断するのが一般的だ。

バンドウォークはトレンド継続の合図

バンドウォーク

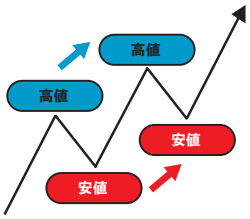


トレンド発生中はバンドに沿って価格が推移

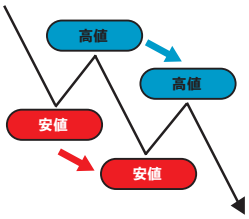
ダウ理論

Dow theory

上昇トレンド



下降トレンド



この手法は、ダウ理論によるトレンド判定がベースになっている。ダウ理論では、連続する高値および安値が、それより前の高値・安値を切り上げる状態を上昇トレンド、反対に連続する高値および安値が、それより前の高値・安値を切り下げる状態を下降トレンドと定義しており、その状態が崩れるまでトレンドは継続するとされている。この考え方が、トレンドフォローの有効性を示す根拠になる。

右肩下がりなら、その下降の流れに沿って下位足で戻りを狙うのが基本戦略です」

15分足でレンジブレイクを狙う

4時間足の方向性を重視するこの手法。具体的にエントリーはどのように行うのだろうか。

「エントリーに使う時間足は15分足です。4時間足で大きな流れを読み取り、15分足でその方向にレンジブレイクしたタイミングでエントリーします。上昇局面であれば直近のレンジ高値を上抜いたポイント、下降局面であれば直近のレンジ安値を下抜いたポイントです。レンジブレイク後は、その方向に素直に伸びることが多いです。

なお、15分足でもボリンジャーバンドの傾きは重要で、4時間足と同じ方向に傾いているときの方がエントリーの精度は上がります。15分足のボリンジャーバンドが横ばい、もしくはトレンドと反対方向に傾いている場合はトレードを控えた方が良いでしょう」

チャート提供：TradingView

トレード手法の基本情報

狙い目の通貨ペア	ドル円、ユーロドル、ユーロ円、ポンドドル、ポンド円
チャート時間軸	15分足、4時間足
トレードしやすい時間帯	欧州時間～NY時間
勝率の目安	70%前後
リスクリワードレシオの目安	1:2～1:5
平均ポジション保有時間	6～24時間
トレードの頻度	デイトレベースで1週間に2、3回

①環境認識

●上記のトレードしやすい時間帯に、4時間足で高値・安値を切り上げているか、ボリンジャーバンド（期間20、±1σと±2σを表示）に傾きが出ているかをチェック
●ボリンジャーバンドに傾きが出ていない場合はトレンドなしと判断してトレードは見送り

②新規売買（新規買いの場合）

●ボリンジャーバンドが右肩上がりになっている
●15分足に切り替えて押し目を狙う。直近のレンジの高値を上方向にブレイクアウトしたら買いでエントリー



③決済売買（新規買い→売り決済の場合）

利益確定

●利益確定の基本は、15分足でボリンジャーバンドのバンドウォークが終了したとき
●4時間足レベルの大きな波を狙う場合は、トレーリングストップを活用して利益をできるだけ伸ばす

損切り

●損切りの基本は、ダウ理論で上昇トレンドの継続を否定したとき
●15分足で直近のレンジ安値の少し下に損切りを設定

利益を伸ばしたいなら トレールを利用する

決済のルールに関しては、短期トレードか長めのトレードかで使い分けているという。

「早めに利食いする短期トレードでは、15分足でボリンジャーバンドのバンドウォークが終了した時点で決済します。一方、大きな利益を取りたい長めのトレードでは、損切りラインをトレールしていきます。

例えば、上昇トレンドを狙う場合の損切りはレンジの安値の少し下に置きますが、エントリー後に価格が上昇して再びレンジを形成したら、損切りラインをそのレンジ下限あたりまで引き上げ、損失を限定しつつ利益を最大限に伸ばすのがポイントです」

ちなみに、Kouさんは損切り幅に対して損失額を資金の3%に設定しているとのこと。自分に合った損切りルールを決めて実践するようにしよう。





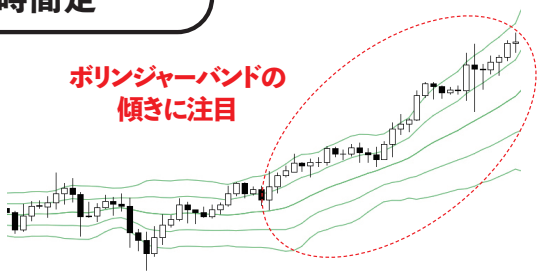
Kou

上位足の流れに沿ったレンジブレイク手法

トレード実践例

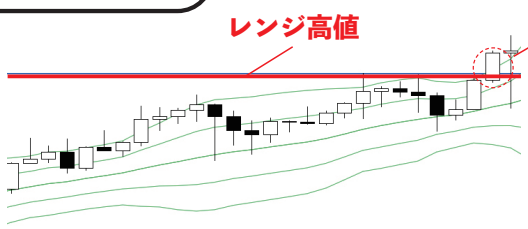
ドル円◉4時間足+15分足◉2022年10月14日

4時間足



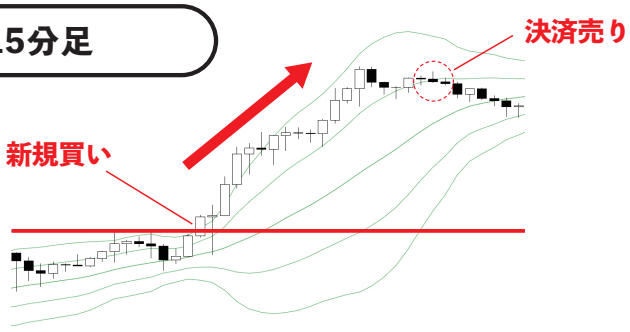
4時間足で
高値と安値を切り上げ、
ボリンジャーバンドが右肩上がり
なので上昇トレンドと判断

15分足



15分足で直近のレンジ高値を
ブレイクアウトしたときに
買いでエントリー

15分足



バンドウォークが終了した
タイミングで利食いする

この手法を用いた、ドル円のトレード例。4時間足でボリンジャーバンドの傾きが横ばいから右肩上がりに変化したことを確認。高値・安値を共に切り上げていて上昇トレンドが継続すると考えられるので買い目線でのトレードを想定し、15分足で押し目を作ってから直近のレンジ高値をブレイクアウトしたタイミングでエントリー。勢いよく上昇した後、ボリンジャーバンドの+1σを割り込んだところでバンドウォーク終了と判断し、利益確定の決済を行った。

チャート提供：TradingView

ベーシストFX手法研究家&物理学者Kouによる

王道トレンドの手引き

「ダウ理論さえあれば勝てる」と聞くことはあっても「ダウ理論は後付け。実戦では使えない。トレードに関係ない」などと思っていませんか？　ダウ理論は値動きの基本なのでしっかり覚えていきましょう！

ダウ理論の中でも特に重要なのは二つ

ダウ理論には六つの法則があります。

①平均はすべての事象を織り込む

②トレンドには3種類ある

③主要トレンドは3段階からなる

④平均は相互に確認されなければならない

⑤トレンドは出来高でも確認されなければならない

⑥トレンドは明確な転換シグナルが発生するまでは継続する

特に大切なのが⑤と⑥です。

「⑤トレンドは出来高でも確認されなければならない」→出来高＝相場の過熱感→オシレーターで確認できる（僕はストキャスティクスで見ています）。

「⑥トレンドは明確な転換シグナルが発生するまでは継続する」→流れができたらすぐには止まらない→押し安値・戻り高値を基準にしたトレンドフォローは、優位性が高いと考えることができます。

よって、「押し安値・戻り高値がどこなのか？」「各時間足の今の目線がどっちを向いているのか？」の見方がブレてしまうと、狙っている方向が決まらなくて、小さなレンジで振り回されたりしてしまいます。これについて、どういうことか説明していくので、まず目線（エントリーではなく狙う方向感）の決め方を確認しましょう。

まずはイメージ図で流れをつかむ練習を

こんな時、ダウ理論に沿った目線は上・下どちらですか？　上位足、下位足は考慮しないものとする（図❶）。図を見て考えてみてください。

答えはこうなります（図❷）。あくまでもまだ押し安値よりも上にローソク足があり、上昇トレンドが継続しているので「上へ向かう根拠」を拾っていくようにしましょう。

じゃあ、こんな時（図❸）はどうですか？　これも考えてみてください。

先ほどは上を狙うのに対して、下位足も考えてみると下位足は下目線。上位足

ベーシストFX手法研究家&物理学者
Kou



Profile

Kou（こう）

物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

Twitter:@BassistFX_Kou

Blog:https://fxshuhou.com/

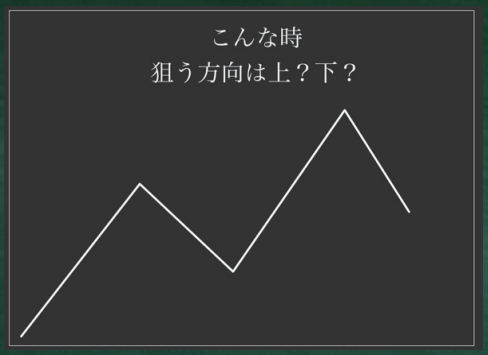
YouTube:https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA

Instagram:https://www.instagram.com/kou.trader__/

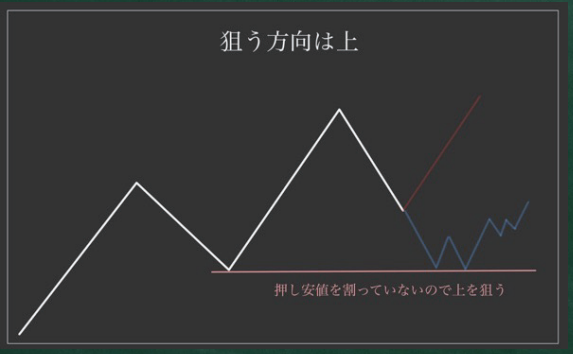
は買えるタイミングを探している。下位足は売れるタイミングを探している→方向感が分かりにくく、これからレンジになりやすい、といった予想ができるようになっていきます（図❹）。

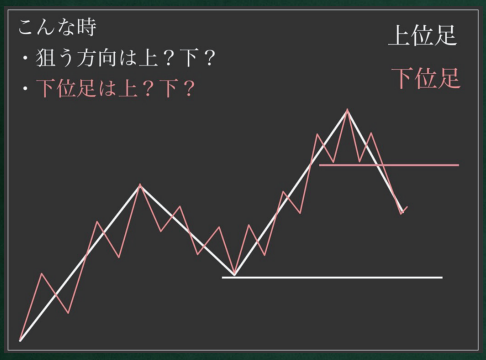
レンジになる可能性が高いと分かっているなら、もみ合ったのを確認してから、

［図❶］この時間足よりサイクルが長い時間足を無視した場合、上を狙うべきか下を狙うべきか考えてみよう。



［図❷］答えは上。直近の押し目となっている安値を下回っていないため、目線は上。このラインを下抜けするまでは、上昇の動きを狙っていきます。

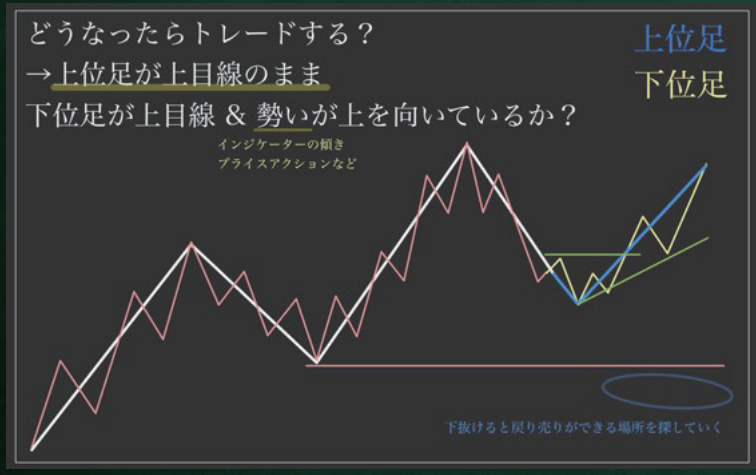




［図❸］上位足は、図❶、図❷と同じですが、下位足が入ってきています。このようなマルチタイムフレーム的な視点での分析は、今後何度も行っていくことになります。

下位足の戻り高値を上に抜けて、目線が上に切り替わってくると「そろそろ買っていけるかな？」と考えられます。

あなたは「どこを押し安値と見ていますか？」「どこを戻り高値と見ていますか？」、これを自分なりに一定の基準で見ることがすごく大切で、ブレてしまったら各時間の狙う方向の判断が定まらずエントリーのサインもどれを信じたらいいかが分からなくなってしまいます。



［図❹］上位足は上目線ですが、下位足は下目線と両者は一致しておらず、目先はもみ合いになりやすいと判断します。

僕は陽線、陰線が入り混じって水平線が引けることを意識しています。この辺りの水平線の引き方は、次回に実際のチャートで説明するので、今回は「狙う方向の決め方」「トレンドに逆らってはいけないこと」を知って、トレンドフォローの基本的な考え方を覚えておいてくださいね。



ベーシストFX手法研究家&物理学者Kouによる

王道トレードの手引き

気づいたらチャートがラインだらけになっていた…なんて経験はありませんか？　水平線やトレンドラインなどを引きすぎると、チャートが見づらくなるばかりか、意味のないラインに惑わされてトレードの判断が鈍る可能性もあります。今回は、機能する水平線を引くコツをお伝えします。

水平線ってチャートにどう引くのが正解？

僕が水平線を引く場所は、「①長期足の高値・安値」「②押し安値・戻り高値」「③レジスタンスとサポートの転換ライン」「④レンジの上限・下限」です。何か所もあると難しく感じるかもしれませんが、一つずつ見ていきましょう。

①長期足の高値・安値（図①）

為替はある程度決まった価格帯で上下を繰り返すものなので、月足や週足といった長期足の高値・安値は必ずチェックする必要があります。15分足、1時間足などの短期的な高値・安値は下位足にインジケーターの傾きが出てくる（勢いがある）と目先のラインを基本的に抜くものと捉えておきましょう。

②押し安値・戻り高値（図②）

ダウ理論の目線が転換するかどうかを判断する重要なラインなので必ず引くようにしましょう。このラインで長期の大きなトレンドと短期の小さなトレンドがどちらの方向を向いているかが分かり、方向感の一致に気づけます。

③レジスタンスとサポートの転換ライン（図③1・2）

高値を更新するまではレジスタンス（抵抗帯）として機能していたものが高値を更新すると今度はサポート（支持帯）として機能し始めるなど、レジサポ転換している価格帯に引けるライン。過去に反応している価格帯は何度も機能するので引いておきましょう。

④レンジの上限・下限（図④）

揉み合った事実があると、そこが上位足でも高値・安値と認識されやすいので反応します。どのサイズの揉み合いをレンジと捉えるかによってレンジの上限・下限が違ってくるので、うまく判断できないと感じる方は、ボリンジャーバンドがスクイーズしているあたりの高値・安値を目安にすると引き方が安定します。

複数の引き方をお伝えしましたが、リアルタイムで相場が動いている状態では、押し安値・戻り高値を基準にしてお

ベーシストFX手法研究家&物理学者
Kou



Profile

Kou（こう）

物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

Twitter:@BassistFX_Kou

Blog:https://fxshuhou.com/

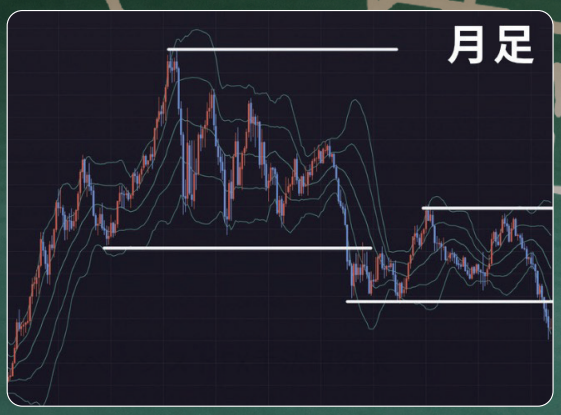
YouTube:https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA

Instagram:https://www.instagram.com/kou.trader__/

くと、ダウ理論によるトレンド方向が分かります。短期のダウの転換部分（押し安値・戻り高値）がレジサポ転換ラインになったり、揉み合いが起きやすい場所になったりするのが理解していただけるはずです。ダウ理論に沿ってラインを考えて、大きなトレンド方向を把握し、それと同じ方向へ向かう下位足の転換、レジサポ転換、揉み合いを見るようにしましょう。繰り返しやっていくと、揉み合いの中で方向感が出てきていることに気づけたりします。

また、ラインの見方を決めると、目の前にラインがあっても気にならなくなり、一時的な逆方向への値動きによるチキン利食いや、損切り貧乏を改善していけます。「どのラインが正解か?」ではなく、自身の引き方がブレていないかどうかを改めて確認しておいてくださいね。

図① 長期足の高値・安値

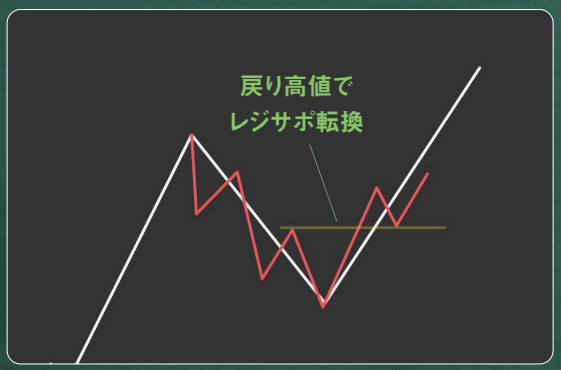


図② 押し安値・戻り高値

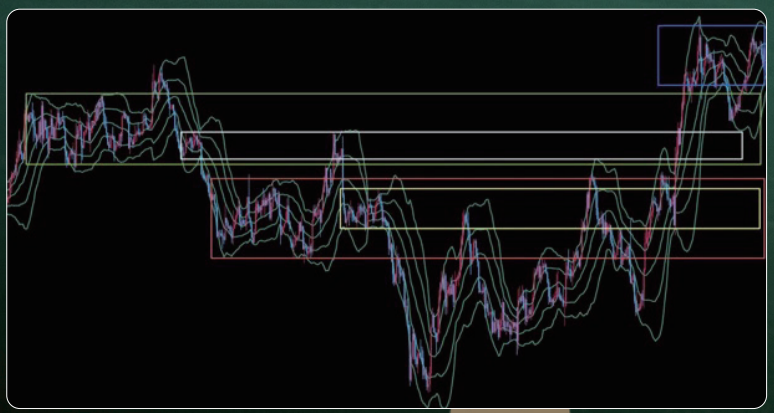




図③1 レジスタンスとサポートの転換ライン



図③2 レジスタンスとサポートの転換ライン



図④ レンジの上限・下限

次回は、チャートパターンやプライスアクションに関する内容をお伝えしていきます。



©2000-2023, MetaQuotes Ltd

ベーシストFX手法研究家&物理学者Kouによる

王道トレードの手引き

ダブルトップや三尊といったチャートパターン、ピンバーやアウトサイドバーといったプライスアクションを利用する際、形だけ見てエントリーしていませんか？　形はもちろん大切ですが、他にも見るべきポイントがいくつかあります。今回は、チャートパターンやプライスアクションの基本的な見方を解説します。

本質を捉えるためには目線をつける必要がある

チャートパターンやプライスアクションを活用する際、形を意識することが多いと思いますが、それだけでは不十分です。形だけではなく、「各時間足の目線」や「インジケーターの傾き」などを併せて見ることで、狙うべき方向と相場が向かおうとしている方向が合っているかが分かるようになっていきます。

チャートパターンは探そうと思えば、それっぽい形のものがたくさん見つかります。プライスアクションに関しては、どの時間足でどう見ればいいのかが分からなくなってしまうこともあるでしょう。

結局、ダウ理論による各時間足の目線がブレてしまうと、どう頑張ってもトレードが安定しません。まずは各時間足の目線を必ずつけられるようにしておいてください。

基本的に、チャートパターンをできるだけ同じ基準で判断するには、「チャートパターンの形を作っているローソク足の本数を一定にする」ことが大切です。常に同じサイズ感でチャートパターンを見ることで、見方が安定していきます（図①）。

一方、プライスアクションで大切なことは「形よりも中身」です。どうやってその形ができたのかを見ることで、その形の意味が分かり、フラクタル構造への理解も深まっていきます。

例えば、ピンバーについて考えてみましょう。一般的に、長い下ヒゲは買いが強い状態、長い上ヒゲは売りが強い状態といわれます（図②）。

中身を見てみると、長い下ヒゲをつけた陽線の場合は「下げの否定&目線の転換」が起きていることが多いです（図③）。下目線が続いている場合もあるので、形だけを見て安易に飛び乗るのは危険といえます。

長い下ヒゲをつけた陰線の場合でも、きちんと上目線になっていることもあるので、必ず中身を見るようにしてください（図④）。

このように、「チャートパターンのサイズ感をどう見ているか？」「プライスアク

ベーシストFX手法研究家&物理学者
Kou





Profile

Kou（こう）

物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

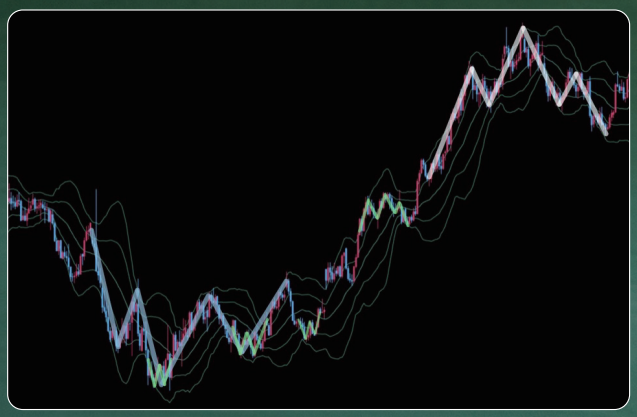
Twitter:@BassistFX_Kou
Blog:https://fxshuhou.com/
YouTube:https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA
Instagram:https://www.instagram.com/kou.trader__/

ションの中身がどうなっているか?」などを意識できると、「チャートパターンの中にある下位足レベルのチャートパターン」「プライスアクションの中にあるチャートパターン」「チャートパターンの中にあるプライスアクション」といったものに気づけます。

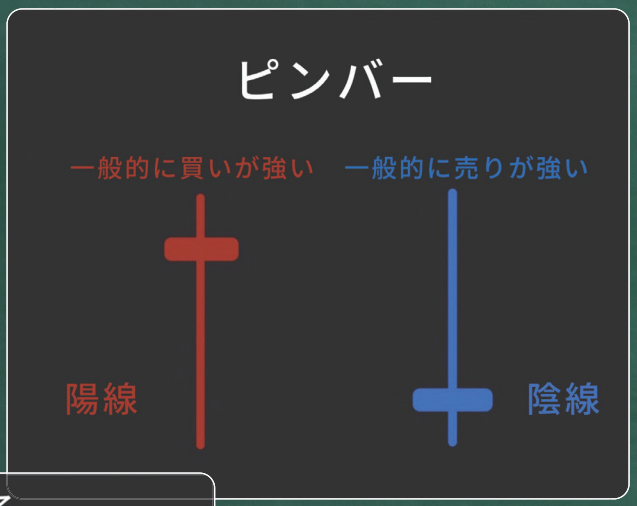
それと併せて、「上位足の目線はどうなっているか?」にも注目です。上位足で上昇トレンドが出ているなら、上に向かう形（逆三尊、陽線のアウトサイドバー、長い下ヒゲなど）を拾い続け、下に向かおうとする形（三尊、陰線のアウトサイドバー、長い上ヒゲなど）をスルーしてみてください。方向感の一致を狙うだけでトレードの精度は上がるので、「そろそろ反転するかも?」という思い込みで逆張りせずに、素直にトレンドに乗る感覚を身につけていきましょう!

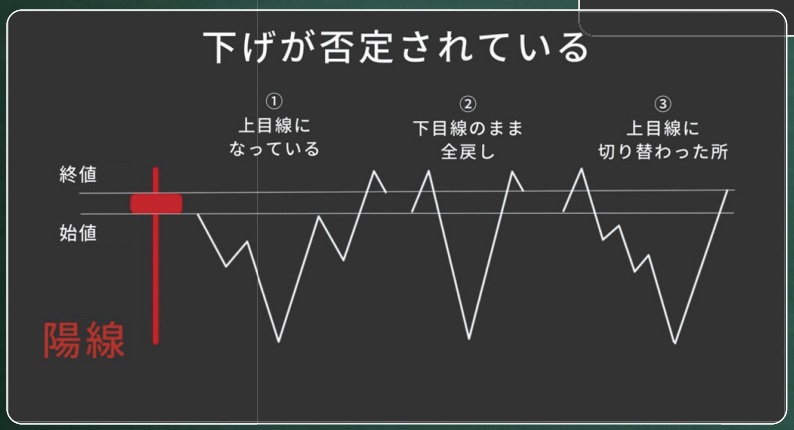
次回は反転の捉え方について解説しますね。

図①

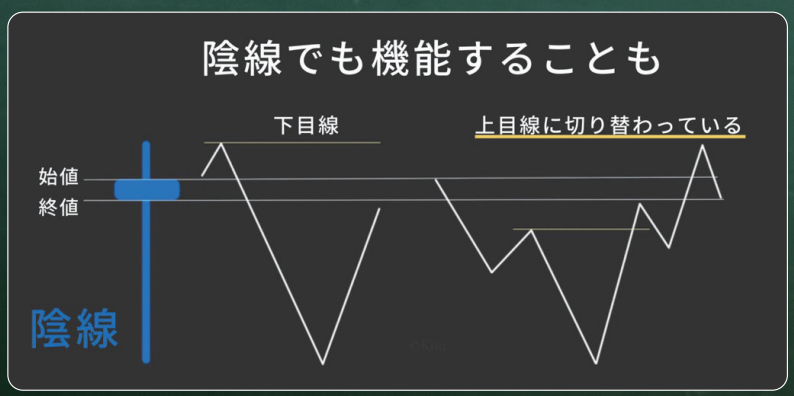


図②





図③



図④

ベーシストFX手法研究家&物理学者Kouによる

王道トレードの手引き

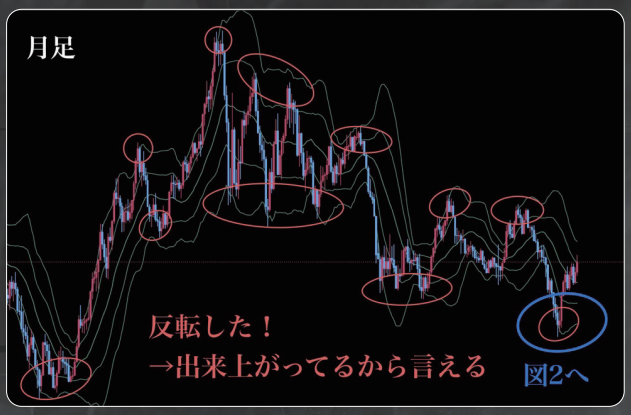
FXトレードにおいて、相場の反転ポイントを見極めることは重要ですが、反転するポイントを完璧に当てることなど誰にもできません。ただし、反転する可能性が高いところを予測して追いかけることはできます。今回は、相場の反転の捉え方について解説します。

ダウ理論をベースに考えると分かりやすい

チャートに水平線を引いた際、「ここで反転するだろう！」と思い込んでいませんか？　結論からいうと、反転するかどうかなんて誰にも分かりません。あくまでも反転する可能性が高いところで反転のサインを追いかけるしかないのです。

初心者のころにやってしまいがちなのが、図①のような長期の反転を根っこから狙おうとすることです。ピンポイントで取れた場合は、短期足の損切り幅で長期足のリワードを得られるのでリスクリワードは非常に良いですが、毎回完璧に当てられますか？　実際はリスクリワードが良ければ勝率は低くても問題ありませんが、反転を細かく狙いすぎて連敗すると感情的になってしまいやすいです。

図❶



ここで質問です。あなたがしているトレードは、「順張りの順張り」「順張りの逆張り」「逆張りの順張り」「逆張りの逆張り」のどれですか？　ピンポイントで反転を狙っているときは下位足で見たら逆張りの逆張りでリスクが高くなるので、下位足の反転を確認してからトレードを考えていきましょう。例えば、日足や4時間足でトレンドが発生しているときの押し目・戻り目を狙うという「順張りの順張り」または「順張りの逆張り」を狙う方が勝率とリスクリワードが確保しやすくなります（図②）。

反転のサインの目安として、「目線の転換」「リバーサル」「チャートパターン」

ベーシストFX手法研究家&物理学者
Kou





©2000-2023, MetaQuotes Ltd

Profile

Kou（こう）
物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

Twitter:@BassistFX_Kou
Blog:https://fxshuhou.com/
YouTube:https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA
Instagram:https://www.instagram.com/kou.trader__/

「プライスアクション」などが挙げられますが、どれもダウ理論の考え方です。上昇トレンドの場合だと、押し目部分で短期的な逆トレンドの戻り高値を超えることで反転の兆しになりますし、リバーサルも一つ前のローソク足の高値を超える＝短期足のダウの転換が起こっている可能性があります。これはチャートパターンやプライスアクションでも同じで、逆三尊のネックライン超えは戻り高値超えなので上目線への転換、下ヒゲのピンバーも中身を見ることで下位足では戻り高値を超えている可能性があります（前回掲載）。このように反転といってもさまざまなパターンが考えられるので、この形だから正解などと決めつけず、ダウ理論を軸に考えていただくと理解しやすいです。

実際のチャートで見ると、日足のダウ理論では上目線、インジケーターの傾きも上（図③）→下位足に落とし込み、4時間足で一つ前のローソク足の高値を一気に超えてリバーサルが発生（図④）→1時間足でも戻り高値を上抜けている（図⑤）→その後リバーサルの安値を下抜けることなく上昇していきましたが（図⑥）、リバーサルの時点では「押し目部分での逆張り」で、4時間足では高値を切り下げて、先端の傾きもやや下で、まだ下がる可能性があるけど買っている状態になります。

順張りの逆張りの場合、逆行する可能性はありますが、損切り幅を狭くできます。勝率を落としたくないなら、その後に逆三尊などの反転のチャートパターンやプライスアクションが現れるのを待ち、底堅いのを確認して「順張りの順張り」をする方が良いです。ただし、リワードは悪くなります。このように勝率とリスクリワードは基本的に相反するので、順張りをするのか逆張りをするのかに絞って、勝率とリスクリワードのバランスが取れているかを確認してください。

最後にまとめると、ダウ理論を軸に考えて長期足の方向感が出てから短期足で目線の切り替わりを追いかけて、それに対する複数の根拠を見つけるように意識しましょう。次回はエントリー、利益確定のコツについて解説しますね。

図❷



図❸



図❹



図❺



図❻



©2000-2023, MetaQuotes Ltd

ダウ理論の目線とボリンジャーバンドでトレード
利益確定は値幅観測論で計算



ベーシストFX手法研究家&物理学者

Kou

ダウ理論の目線とN値で勝率とリスクリワードを高める

本文●yuko

Profile

Kou（こう）

物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

X（旧Twitter）：@BassistFX_Kou
Blog：https://fxshuhou.com/
YouTube：https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA
Instagram：https://www.instagram.com/kou.trader__/

Kouさんに、ダウ理論を軸にしたボリンジャーバンドと値幅観測論を利用したトレード手法を解説していただきました。

「今回は、チャートのテクニカル分析の基本であるダウ理論の中でも、目線の考え方を軸にした、勝率とリスクリワードを両立するテクニカル分析とトレード手法を解説します」とKouさん。

「今回紹介する手法は、15分足～1時間足レベルの損切り幅で、1時間足～4時間足の値幅を取れるリスクリワードの良い手法です。リスクリワードが良いと勝率は低くなりがちですが、この手法では日足のダウ理論の目線を軸にすることで勝率も高めています。直近6か月の勝率は約68％でした。

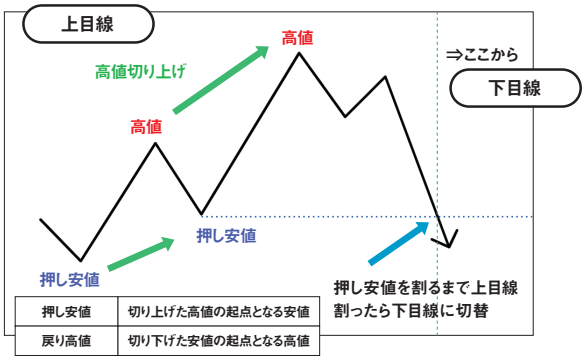
このように、取引回数は少ないですが、リスクリワードと勝率を両立している手法です。

まず、環境認識として、日足のダウ理論の目線を確認します。目線の方向を確認したら、4時間足のボリンジャーバンドのミドルラインが同じ方向に傾いているかをチェックします。傾きがない場合はトレードしません。

この日足のダウ理論の目線で狙う方向を決めて、その方向に沿って

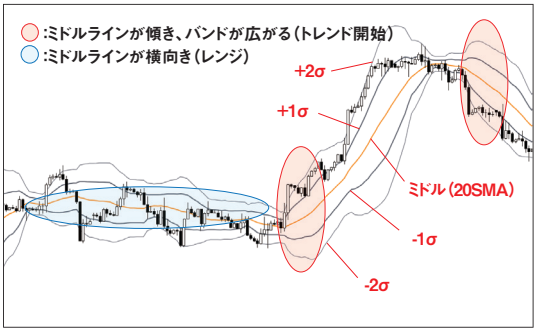
How to Technical

手法で使用するテクニカル分析



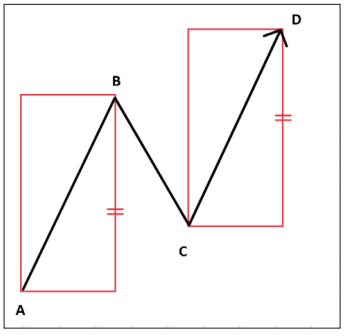
図❶ダウ理論
(Dow Theory)

この手法では、ダウ理論の目線を軸にしています。切り下げた安値の起点となる高値（戻り高値）を超えたら上目線となり、切り上げた高値の起点となる安値（押し安値）を割るまで上目線が継続します。目線の方向にトレンドが発生・継続しやすいと考えます。



図❷ボリンジャーバンド
(Bollinger Band)

ボリンジャーバンドのミドルラインは期間20の単純移動平均線（SMA）であり、その方向と傾きでトレンドの方向と強さを確認できます。上下のバンドはボラティリティが大きくなると幅が広がります。ミドルラインが横向きでバンドの幅が狭いときはレンジ相場。ミドルラインに傾きが出てきてバンドが広がると、トレンド開始を察知できます。



図❸N値

値幅観測論は、それまでの相場の値動きからあとどれくらいの値動きがあるかを予測計算する理論のことで、この手法ではN計算値（N値）を利用しています。
N値は上昇トレンドの場合、上昇幅と同じ値幅が、押し安値からさらに上昇すると予測します。左の図では、ABの値幅＝CDの値幅となります。

押し目・戻り目からの値幅をN値で計算

トレードをすることが勝率を高めるための重要なポイントです」

短期レンジを待ってから15分足でエントリー

「エントリーは、1時間足が短期レンジを形成し、ボリンジャーバンドのミドルラインの傾きが横からやや日足の目線方向になるのを待って行います。

短期のダウの目線転換とボリンジャーバンドのミドルラインが日足の目線と同じ方向に傾きはじめ、上下のバンドの幅が広がったら、日足の目線と同じ方向にエントリーします。

利益確定は値幅観測論のN値を利用します。目線が上方向の場合は、1時間足のレンジを形成する前に出た直近の上昇（目線が下方向の場合は下落）の値幅と同じ値幅が出ると予測します。損切りは短期レンジを反対側に抜けたときです。

このように、利益は1時間足～4時間足の値幅を狙い、損切りは15分足～1時間足のレンジ幅なので、損小利大のトレードとなるところ

チャート提供：TradingView

トレード手法の基本情報

狙う通貨ペア	ドル円、ユーロドル、ユーロ円、ポンドドル、ポンド円		
チャートの時間軸（環境認識）	(週足を週の最初にチェック)、日足、4時間足、1時間足		
チャートの時間軸（新規エントリー）	1時間足、15分足	チャートの時間軸（決済）	15分足
使用するインジケーター	ボリンジャーバンド(期間20、偏差±1σ・±2σ)		
使用するチャート	ローソク足	使用するライン・オブジェクト	水平線
使用する理論	ダウ理論	平均的なポジション保有時間	2日前後
平均的な利益確定の値幅	60pips	平均的な損切りの値幅	30pips

勝率の目安
約68%
直近6か月

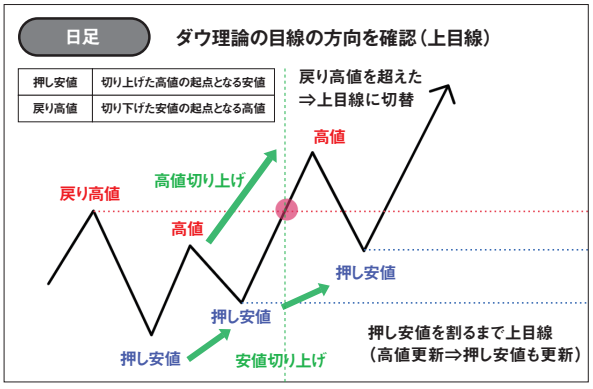
トレードの頻度
1通貨ペアあたり2-3日に1回程度

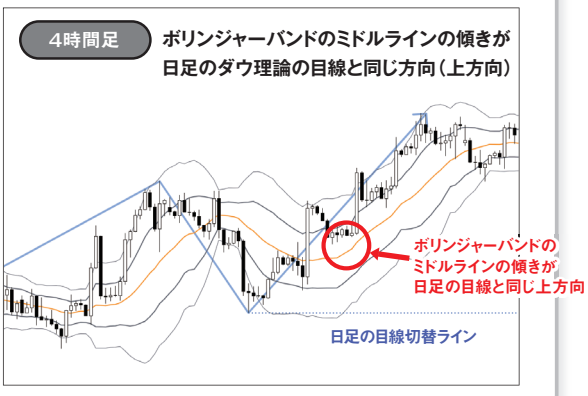
環境認識では4時間以上の長期足、エントリーと決済は主に15分足で行っています。トレードの頻度は数日に1回程度で、保有期間は2日間ほど。トレード回数は多くないですが、リスク1に対してリワード2を狙う損小利大トレードです。

How to Technical

環境認識

●日足のダウ理論の目線を確認
●目線方向と同じ方向に4時間足のボリンジャーバンドのミドルラインが傾いているかを確認
●トレードしない条件
①日足のダウ理論の目線の方向と4時間足のボリンジャーバンドのミドルラインの傾きの方向が異なっている場合
②4時間足のボリンジャーバンドのミドルラインの傾きがない場合





が、この手法のメリットです」

押し安値と戻り高値は？目線の基準を持つ

この手法を使う上でのポイントや気をつける点はどこでしょうか。

「この手法を使うには、ダウ理論の押し安値、戻り高値をどこで見るか？という基準を自分の中で持つことが必要です。この基準があれば、ダウ理論の目線でトレンドの方向を把握し、4時間足の傾きを確認することで、トレンド方向とインジケーターの傾きが合っているかの判断が可能になります。

押し安値と戻り高値の見方が分からない方は、私の連載記事『王道トレードの手引き』の『第2回 機能する水平線を引くコツ』を参考にしてください」

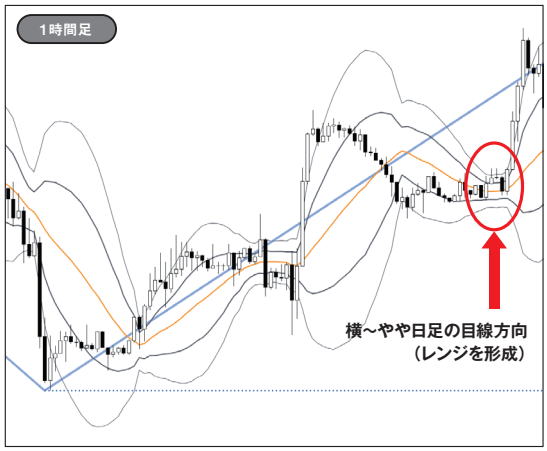
ダウ理論の目線を使いこなせるとトレードの難易度がグンと下がります。納得できるまで検証することが大事とのことでした。

機能する水平線を引くコツについては、外国為替Onlineのページでもご覧いただけます。(https://forex-online.jp/trade-ideas/vol4-kou/)

チャート提供：TradingView

How to Technical

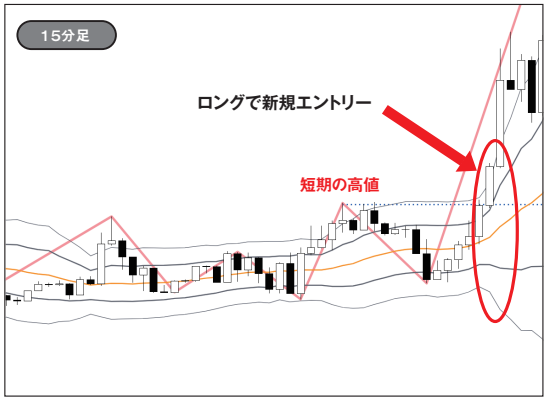
エントリー（新規買いの場合）



●1時間足のボリンジャーバンドの
ミドルラインの傾きが
横～やや上となり、レンジを形成

短期足でも
目線の転換が
合図になる!

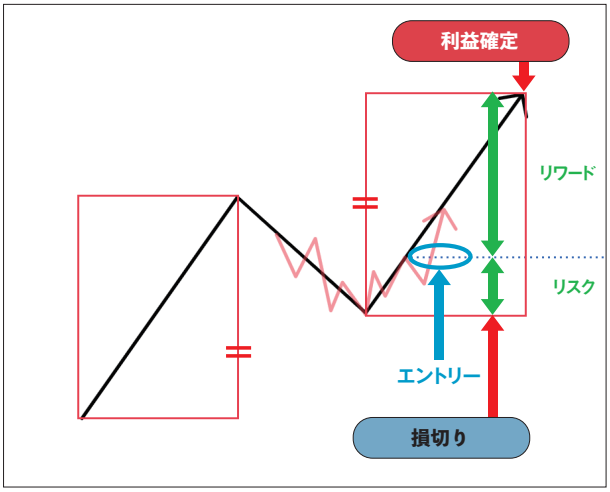
①短期のダウ理論の目線が転換
②ボリンジャーバンドのミドルラインの傾きが上
③バンドが広がる
条件がそろえばロングでエントリー



長期足の目線と傾きを確認できたら
1時間足のレンジの形成を待つ

How to Technical

決済売買（新規買い→決済売りの場合）



利益確定

●値幅観測論のN値を利用
過去の上昇と同じ値幅＝
N値で利益確定
●リスクリワードは1:2程度

損切り

●1時間足で形成されたレンジを
下抜けたら損切り

チャート提供：TradingView

押し安値・戻り高値と傾きで狙う方向を決めると勝率を高めやすい

この手法を用いた、ドル円のトレード例です。

このトレードの環境認識では、日足のダウ理論の目線は最安値をつけた戻り高値を上抜き上目線。ここからは最高値をつけた根本の押し安値を割るまでは上目線継続。4時間足のボリンジャーバンドのミドルラインの傾きも上方向で、日足の目線と同じ上方向であるため、エントリータイミングを計ります。

1時間足がレンジを形成し、ボリンジャーバンドのミドルラインの傾きが横～やや日足の目線方向となっていることを確認できるまで待ちます。

15分足で短期ダウの転換を待ち、短期ダウが転換するタイミングで、ボリンジャーバンドのミドルラインの傾きが上方向になり、上下のバンドが広がったため、買いでエントリー。

直近のレンジの下限（押し目）から過去の上昇の値幅と同じ値幅（N値）で利益確定。

レンジを下抜けたら損切りですが、今回は損切りにかからず、N値を達成しました。

このトレードでは、損切りは約30pips、利益確定は約60pipsのリスクリワード1：2程度となりました。

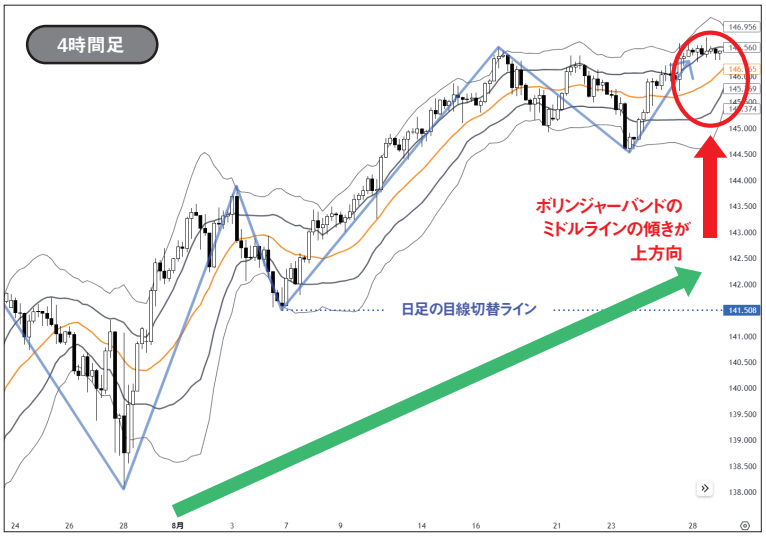
エントリー時には、値幅を確認し、リスクが小さくなっていることを確認することも大切です。



Message

この手法でも、これ以外の手法でも、上位足に沿って考えられている手法なら、ほぼプラスの成績になるので、その方法を信じられるまで検証を重ねることが大事です。
本誌で僕が連載している「王道トレードの手引き」で、今回紹介したトレードの軸になっている基礎知識を解説しているので、ぜひこちらもお読みください。

実戦例:環境認識 | ドル円◉日足～1時間足◉2023年8月29日



日足ダウ目線と傾きでトレンドに乗る

日足のダウ理論の目線は、直近の最安値をつけた戻り高値を超えたため上目線。最高値をつけた押し安値を割るまでは上目線継続です。4時間足チャートに目線切替ラインを表示させています。4時間足のボリンジャーバンドのミドルラインの傾きが上になっていることを確認できたのでエントリーできるタイミングを待ちます。

日足の目線切替ラインを確認し、ボリンジャーバンドの傾きでトレンドに逆らっていないかチェック!

チャート提供：TradingView

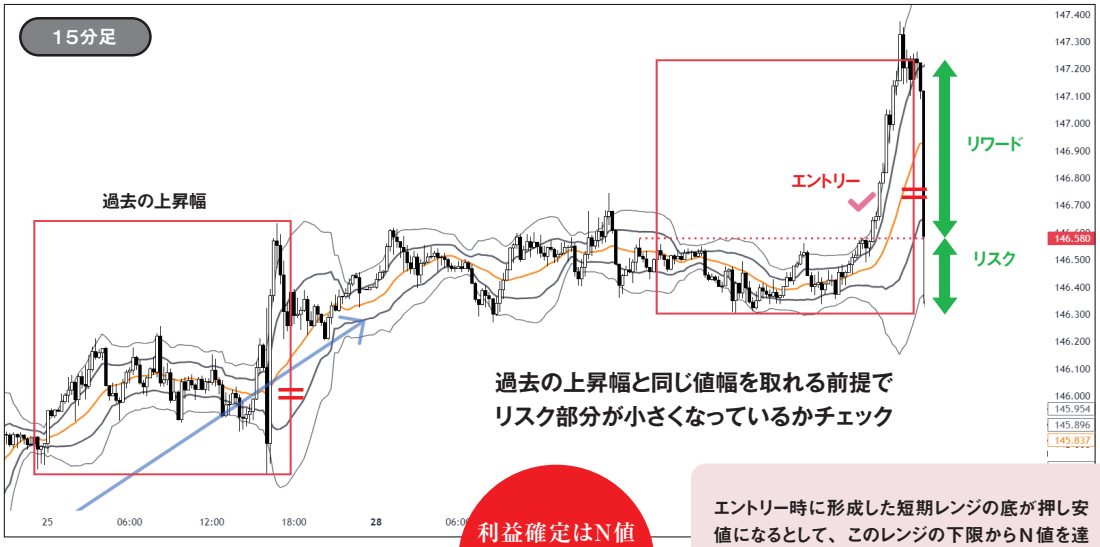
How to Technical

実戦例:エントリーおよび決済



レンジ形成後
短期も目線が
そろうのを待つ

エントリーは1時間足のボリンジャーバンドのミドルラインが横向きになり、レンジを形成するのを待ってからになります。15分足で短期のダウ目線が転換したタイミングで、ボリンジャーバンドのミドルラインも上向きに変わり、上下のバンドの幅が広がるのを確認できたため、エントリーします。このとき、過去の上昇の値幅と短期レンジの幅を比較し、リスクリワードが十分かチェックしておきます。



利益確定はN値
損切りはレンジ
の下抜け

エントリー時に形成した短期レンジの底が押し安値になるとして、このレンジの下限からN値を達成すると予測します。過去の上昇幅は短期レンジを形成する前の上昇です。この値幅を取れるとして、リスクが十分小さくなっていることをチェックします。このトレードではリスクリワード1：2となりました。

①短期ダウが転換し、日足の目線と方向がそろう
②ボリンジャーバンドのミドルラインの傾きもそろう
③ボリンジャーバンドの上下のバンドが広がる
④過去の上昇幅が出るとして、短期レンジの底との値幅を比較
⑤リスクが十分小さいのでロングエントリー

**日足の方向とそろっていることと
リスクが十分小さくなっていることを要確認**

チャート提供：TradingView

俺のテクニカル
MY TECHNICAL

1



正しく線を引くことと
マルチタイムフレーム
分析が鍵。

ダウ理論を軸にしたオーソドックスな順張りスタイル

Technical coach.1

Kou@ベーシストFX手法研究家&物理学者

聞き手・本文◉荻田里佳

ダウ理論の基礎を固めるだけで勝率が劇的に変わるというKouさんに、水平線の引き方から、エントリー〜決済の流れを余すことなく解説いただきました。チャート上が水平線だらけになってしまうという人は必見。シンプルなトレードの中に勝てる秘訣がありました。

ダウ理論は広く知られチャートで機能しやすい

ダウ理論を軸とした水平線の引き方やボリンジャーバンドの使い方などのトレード手法を、Kouさんに解説していただきました。

「トレードを続けるためには、再現性の高い手法を身につけることが大切です。トレードに判断材料を入れすぎてしまうと、混乱して途中でルールを意図せず変えてしまう可能性が高くなってしまう。そうならないためにも、シンプルさを追求したトレードをした方が、勝率は上がるのではないかというのが、私の基本的な考え方です」

Kouさんいわく、「自分が守りやすいルール」を見つけることが再現性を高める近道とのこと。

そんなKouさんの勝ちトレードに欠かせないのがダウ理論です。デイトレでは、まず上位足からチャートを開いて、トレンドが出ている方向を確認します。

「デイトレで確認するのは、週足、日足、4時間足、1時間足、15分足の動き

です。上位足から見るのは、マルチタイムフレーム分析を行うため。マルチタイムフレーム分析は、下位足より上位足を重視、上位足の流れを把握したら、下位足で判断するという分析方法です。この考え方をベースにして、週足と日足のチャートを見て、大まかな相場の流れを確認。4時間足では、その日のトレンドなどを見ます。この4時間足に傾きが出ているかどうかはデイトレを行う際に重要です。傾きがなければトレンドが出ていないことになるので、トレードはしない、もしくは下位足に落とし込んで、下位足の傾きが出ている方向へ順張りすることを基本としています。傾きがないとトレンドは伸びにくいですから、そういった勝てそうな局面を待つことも大切ではないかと思います」

Kouさんのチャート分析では、マルチタイムフレーム分析に、ダウ理論を組み合わせます。ダウ理論は多くのトレーダーが取り入れている手法のため、テクニカルとして機能しやすいです。

「まず、トレンドの見方は、高値と安値を切り上げていたら上昇トレンド、高値と安値を切り下げていたら下降トレンドと判断します。さらに、ダウ理論の基本的な考え方である『トレンドは明確なシグナルが出るまで継続する』ことも、チャート分析をする上で重視する要素です。トレンド転換のサインは上で説明している通り。転換のシグナルが出ていないのにもかかわらず、トレンドと逆行したポジションを持つと、それが負けトレードになる確率は上がってしまうので、初心者は特に注意が必要です」

シンプルに水平線を引くルールを定める

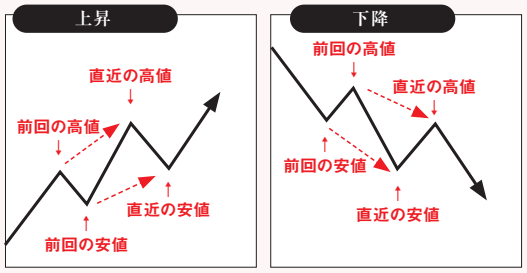
「ダウ理論の考えをベースにトレードを

テクニカルの基本　Technical basics

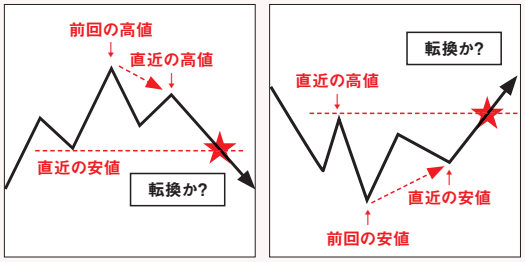
ダウ理論の基本を大切にシンプルを極めてトレンドに乗る

上昇・下降トレンドの条件

ダウ理論では、右図の状態が続く限り、その方向へのトレンドが発生していると考える。上昇トレンドは、前回の高値・安値を共に切り上げている状態のこと。下降トレンドはその逆で、高値・安値を共に切り下げている状態を指す。



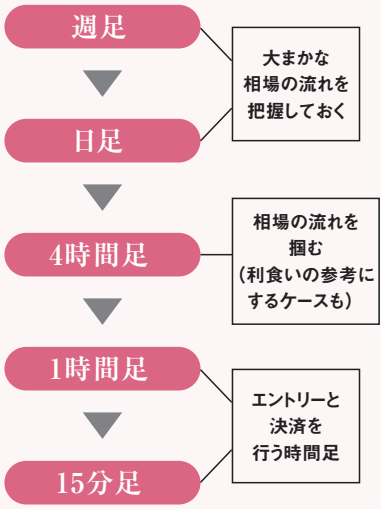
トレンドの転換シグナル



ダウ理論でのトレンド転換は、上昇トレンドの場合、直近の安値を下回ったらトレンドが転換したと考える。下降トレンドの場合はその逆で、直近の高値を上回ったら転換したと考える。これが、押し安値・戻り高値の考え方の基本となる。

Kouさんスタイルの環境認識の流れ

順番に落とし込んでいく



週足から下位足のチャートを順番に見ながら方向性を確認する。15分足や1時間足はエントリーのチャンスを探るために使う時間軸。利益の値幅は大きく狙いたいので、利食いポイントは4時間足を参考にすることもある。



成功させる秘訣は、水平線にあります。視覚的にトレンドがどちらへ伸びているのか判断できるようにするために水平線を引いていくのですが、この水平線をしっかりと引けるようになるのが大切です。なぜ、そこに水平線を引いたのか理由を説明できないと、ルールがブレて、エントリーも根拠のないものになってしまうと思います」

どこに水平線を引くか悩むこともあるはずで、そんなときはチャートの何を見るべきなのでしょうか。

「私の場合は、押し安値と戻り高値に水平線を引きます。押し安値とは、高値を更新したときに起点となった安値のこと。戻り高値は、安値を更新したときに起点となった高値のこと。この二つを基準としつつ、水平線を引く位置に迷ったら、ボリンジャーバンドがスクイーズしているところに水平線を引くと良いと思います。スクイーズして、もみ合っているなら、トレーダーから意識されている価格帯ということ。そこをブレイクするとレートが大きく動きやすいんです」

また、水平線を引きすぎないのは、目の前のチャートの動きを理解するために必要な技術です。

「私自身も最初は水平線を引きすぎて、エントリーをすると、すぐ目の前に違う水平線が出現して悩んでしまうことがありました。すると、自分の水平線が合っているのか疑問に感じ始め、トレードがブレるきっかけになります。勝率にも影響してしまうので、水平線を引くルールを徹底して、シンプルにした方が自分のためになります」

乖離からの回帰狙いは±1σが基準になる

水平線を引いて、視覚的にもトレンドが分かりやすくなったところで、エントリーの位置はどこに設定するのでしょうか。

「エントリーは15分足で行いますが、15分足は短期的に方向が切り替わることがあります。もし、方向が切り替わった場合は、再度目線が上位足と揃うのを待ちます。例えば、上位足が上昇で、15分足では上昇から一時的に下目線に切り替わった場合は、ダウ理論的に上昇トレンドが否定されたことを意味します。これを上位足のトレンドに対する押し目と考えて、15分足で高値をブレイクしていくと、また上昇トレンドが始まる可能性を信じてエントリーしていきます」

そもそも、15分足でエントリーポイントを狙う理由も教えていただきました。

「私自身、過去には1分足や5分足でエントリーして、トレード回数を増やしたことがありますが、損失も大きくなりがちでした。下位足になればなるほどダマシは増えてしまい、それを避けるのは難しいんです。15分足で上位足の値幅を狙った方がダマシも少なく、トータルで見たときの利益も増えたので、5分足以下は見ないようになりま

Profile

Kou（こう）

物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

X（旧Twitter）:@BassistFX_Kou
Blog:https://fxshuhou.com/
YouTube :https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA
Instagram :https://www.instagram.com/kou.trader__/



ワンポイント One point

線を引きすぎない考え方

Kouさんスタイルの水平線の引き方



水平線が多すぎるチャート



上は、あるタイミングの戻り高値と押し安値に水平線を引いたチャート、下は高値と安値に水平線を引いたチャート。線を引きすぎると、どれが重要な水平線か分からなくなるので気をつけよう。

した。

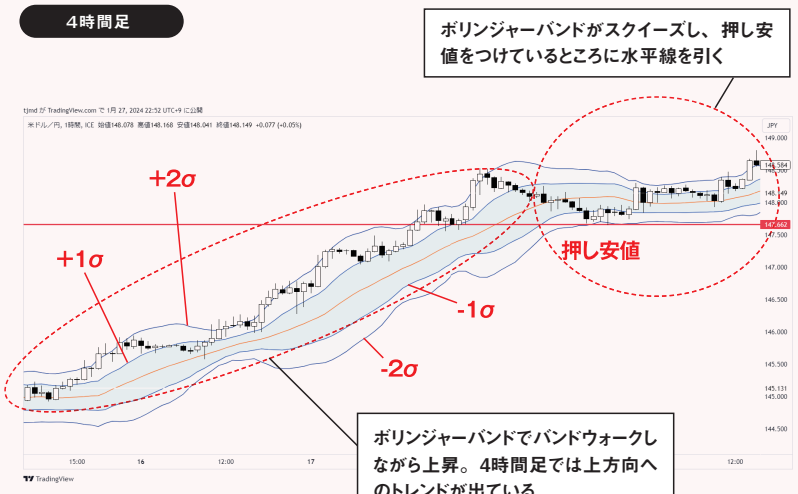
なお、水平線の引き方は人によって引く場所が違うと思うので、自分のやり方を徹底することが大切だと思います。マイルールを貫けば、目線がブレないトレードスタイルが確立してくるはずです。極めると『そろそろもみ合いそうだな』『次にブレイクしてエントリーしたら、値幅が伸びそうだな』というのが読めるようになってきます」

環境認識（4時間足）

Environmental awareness

上位足の押し安値・戻り高値をターゲットに水平線を引く!

4時間足



ボリンジャーバンドを±2σまで表示させ、ローソク足がバンドウォークしているか、ボリンジャーバンドがスクイーズしているかを見る。スクイーズしていて、押し安値・戻り高値をつけている場合は水平線を引く。この水平線付近まで価格が戻ってくれば買い、抜ければ目線が切り替わる。上の4時間足のチャートでは、高値と安値を切り上げていて、上方向へのトレンドが強いことが分かる。

エントリー（15分足）

entry

前回の高値・安値のブレイクで勝ちトレードを狙う下位足の考え方

15分足





チャンスは多くないからこそ無駄なエントリーは避ける

ダウ理論でエントリーしたら、次は利食いと損切りです。

「値幅観測論のN値を参考に利食いを行います。難しい計算ができなくても、チャートソフトの描画ツールでコピーすれば、誰でもN値を弾き出せるはずです。また、損切りは15分足か1時間足を参考にします。例えば、買いでエントリーしたものの、レートが逆行した場合は、押し安値の水平線を割ってから損切り。売りでエントリーをしたものの、レートが逆行してしまったら戻り高値をブレイクしたあたりで損切りを行います。

押し安値・戻り高値の水平線をブレイクするということは、ダウ理論の根拠が崩れるということ。その水平線付近には、根拠が崩れてほしい人と崩れてほしくない人がいるため、もみ合いやすい相場ではありますが、そこから離れると、大きく価格が動く可能性があります。

なお、含み損を見ると損切りできなくなってしまう人などは、逆指値を利用して、機械的に損切りを行うようにしましょう。

ちなみに、エントリーはリスクリワードが1：1、もしくは利益がリスクより大きくなる見込みがある局面以外は手を出しません。

値幅が伸びる局面は1日に何度も現れるわけではないので、エントリー機会は少ないかもしれませんが、大事なのはエントリーの精度です。自分がエントリーや決済をする根拠をしっかり説明できるような場所でトレードを繰り返せば、自然と上手になり、資産はトータルで見て増えていくと思います」

自信をつけてはヘシ折られる大事なのはやめないこと

裁量トレードは、できる感覚を掴むまでが難しく、途中で挫折しそうになる人もいると思います。そんな人にメッセージをいただきました。

「自分の手法が定まるまでは手探りで、このトレードが正しいのか、もっと良い方法はないのかなどと悩むことは誰だって一度は経験しています。私も今のトレードスタイルが確立するまでは、試行錯誤を繰り返しましたが、ある日突然ハッとして、トレンドの方向やエントリーの場所が『分かるかもしれない』という感覚になりました。

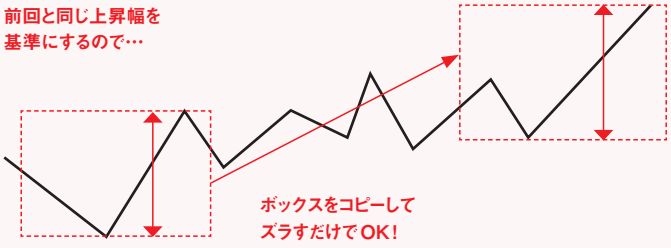
トレードの世界はそんなに甘いものではないので、『できた』『分かった』と思っていても、その後それが通用しない相場に直面して自信を折られることは少なくないのですが…。

大事なのはトレードを続けて、資産を増やすこと。負けが続いても、エントリーや決済した理由を言語化できれば、間違ったトレードではありません。たまたま、そのやり方と相場が合っていなかっただけという可能性もあります。トレードは成功と失敗を繰り返すものであり、大事なのは最後にいくらあなたの手元に残っているかです」



ワンポイント One point

N値の値幅観測をチャートソフトで簡単に実行



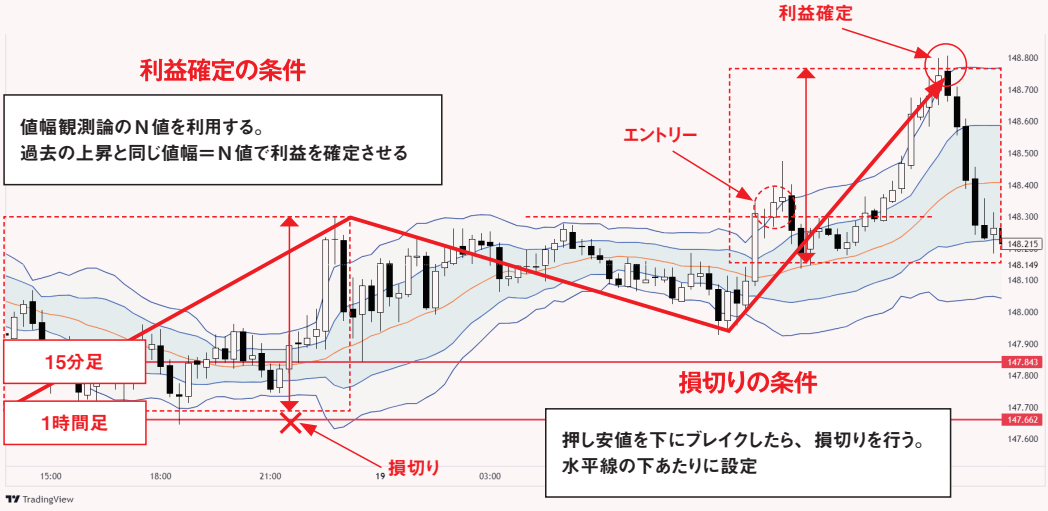
N値は、チャートのボックスを描くツールを使うことで簡単に測ることができる。やり方は、前回伸びた値幅をボックスで囲み、それをコピーするだけ。直近の安値にボックスの下のラインを合わせてボックスを置けば、次に伸びそうな値幅を予測できる。

利益確定

Profit fixed

値幅観測論のN値で予想して利益をしっかり伸ばして獲る

15分足



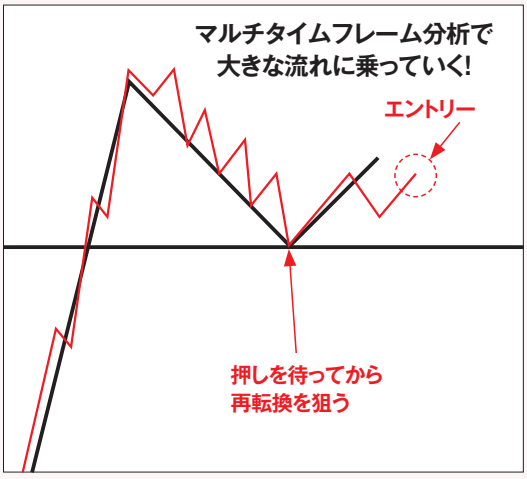
利益確定は、値幅観測論の Ｎ値を用いて算出する。値幅観測論とは、それまでの相場の動きから、その後のレートがどれくらい上昇（または下落）するのかを予測する計算理論のこと。「動いた値幅分は、次も動くだろう」という考え方を用いる。今回もその考え方に従って、○で利食いを行う。損切りは、15分足で押し安値に引いた水平線を基準に、それを下へ割った×に設定する。

実行のポイント

Point of execution

水平線は必要なところだけに引く視覚的な「分かりやすさ」を大切に

- ●押し安値・戻り高値に水平線を引く
- ●水平線を引きすぎない
- ●トレンドに逆らわない
- ●価格が戻ってきたか、必ず確認する
- ●直近の下位足の高値（安値）をブレイク後にエントリーをする
- ●損切りは、上昇トレンドの場合、押し安値を割ったとき、下降トレンドの場合は、戻り高値を上抜いたときに行う
- ●エントリー後、一時的に予想と反する動きをしたとしても慌てずにトレードをすること



重要な水平線が分からなくならないように、水平線を引くルールはシンプルに。押し安値・戻り高値を目安に引いてみる。また、このトレードを成功させるには順張りが絶対条件なので、環境認識はしっかり行うこと。エントリー後、一時的に予想と反対の動きをして慌てて損切りしてしまうと、損失ばかりが積み重なる可能性もある。チャートに振り回されないトレードを積み重ねていくのが上手になる秘訣。

インタビュー日◎2024年1月15日

初心者向けの
手法を教えて
もらった！

BBとダウ理論を軸にトレンドを読み相場に乗って値幅を取る

特別インタビュー◉Kou@ベーシストFX手法研究家

Trends

We will explain how to start, continue, and earn money from FX that will never give up.

Kouさんにボリンジャーバンドとダウ理論を核とした初心者向けのトレード手法を教えていただきました。ボリンジャーバンドで相場の流れを読み、ダウ理論を基に引いた水平線をブレイクするところを狙う順張りトレードです。難しいことはしておらず、シンプルでありながら値幅を期待できるトレード手法なので実践しやすいのがポイント。自身のチャートでもKouさん流のボリンジャーバンドとダウ理論を駆使し、相場から利益を獲得していきましょう。



Profile

Kou（こう）
物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

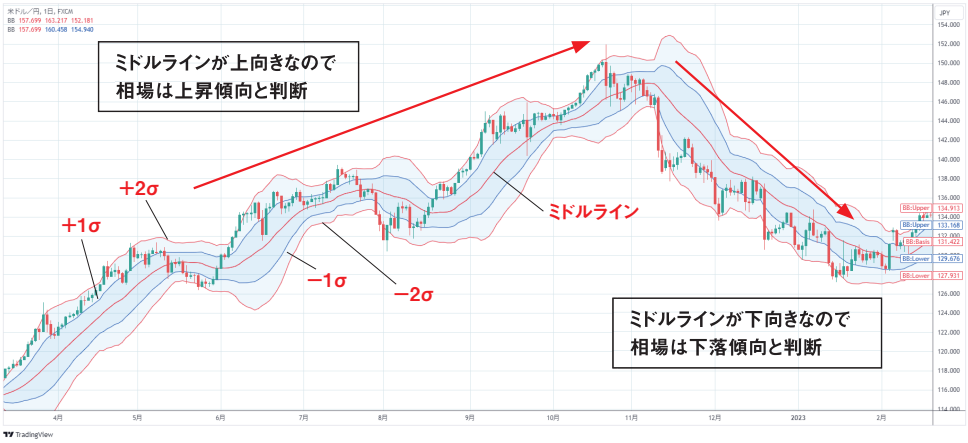
X（旧Twitter）：@BassistFX_Kou
Blog：https://fxshuhou.com/
YouTube：https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA
Instagram：https://www.instagram.com/kou.trader__/



聞き手・本文◉北原拓実

ポイント①

ボリンジャーバンドの傾きの方向によって相場が上昇か下落か横ばいかを判断する



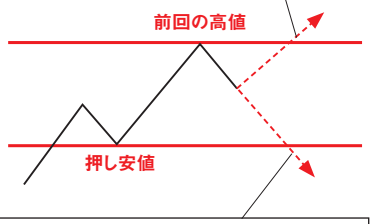
ボリンジャーバンドの中心であるミドルラインは移動平均線なので、この傾きで相場が上昇傾向か、下落傾向かを判断していきます。ミドルラインが上に向いていたら上昇傾向と判断してロングを考え、反対に下を向いていたら下落傾向と判断してショートを考えます。Kouさんはボリンジャーバンドの設定は20期間、±2σまで表示させています。

ポイント②

ダウ理論を基に高値・安値に水平線を引き、水平線をブレイクするタイミングを狙う

上昇トレンド

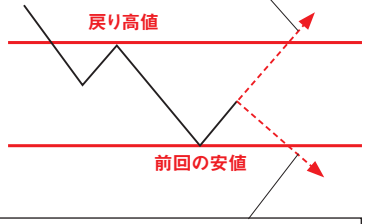
前回の高値を上抜いたら上昇トレンド継続のサインで買いに勢いが出やすくなる



前回の安値を下抜いたらトレンド転換のサインで売りに勢いが出やすくなる

下落トレンド

戻り高値を上抜いたらトレンド転換のサインで買いに勢いが出やすくなる



前回の安値を下抜いたら下落トレンド継続のサインで売りに勢いが出やすくなる

直近の高値や安値、節目の価格などは多くの人に意識されやすく、その価格帯をブレイクしたら価格が動きやすくなる特徴があります。意識されやすい価格帯に水平線を引くと、トレンドの方向が視覚的に分かりやすいのでおすすめです。

Kouさんはダウ理論を基に、押し安値や戻り高値、直近の高値・安値などに水平線を引き、その水平線をブレイクアウトすることによって発生する大きな値動きを狙います。

BBの傾きで方向性を判断し水平線のブレイクアウトを狙う

――まず、初心者が使いやすいテクニカル指標は何だと思われますか？

Kou ボリンジャーバンドが使いやすいかなと思います。私もボリンジャーバンドを使用していて、期間は20、バンドは±1σと±2σを表示させています。最初は線が多く見にくいかもしれませんが、移動平均線＋ボラティリティが分かるので慣れると相場環境を見やすくおすすめです。

あとは水平線を使っています。ダウ理論を参考に押し安値、戻り高値に引いて、その水平線を抜けたところを狙う短期的なブレイクアウトのトレードをしています。

――時間足は何を見ていますか？

Kou 主に日足、4時間足、1時間足、15分足の4種類のマルチタイムフレーム分析をやっています。週初めに週足もチェックしていますが、基本は日足から見ていく感じです。

――ボリンジャーバンドを使ったトレード手法を詳しく教えてください。

Kou ボリンジャーバンドは移動平均線と同じなので、ミドルラインに傾きがあるかどうかで方向性を見ています。日足や4時間できちんと傾きが出ているときにトレードを考えていくのが、環境認識としては分かりやすいかなと思います。

例えば、ボリンジャーバンドのミドルラインの20MAが上に向いていたら上昇傾向と判断して、ロングを考えていきます。反対に、ミドルラインが下を向いていたら下降傾向と判断し、ショートを考えていく形です。

――日足から15分足までの各時間足が全て上を向いているなら買いを狙っていくという考えでしょうか？

Kou 全部の足のボリンジャーバンドが上を向いている場合だと移動平均線でいうパーフェクトオーダー状態で、トレンドがものすごく強い状態です。でもその状況だとエントリー後は伸びにくく、損切り幅も広くなりやすいです。

例えば、日足～1時間足のボリンジャーバンドが上を向いている上昇トレンドだとしたら、15分足のボリンジャーバンドがスクイーズして横ばいになってから、上にブレイクし始めるところなどを狙います。そうすると、レンジの反対側に損切りを置けるので、損切り幅も狭くなりやすいし、もみ合うことで次の伸び代も出てくるので、リスクリワードが悪くなりにくいメリットがあります。

具体的なエントリーポイントはダウ理論を基に、15分足の押し安値、戻り高値に水平線を引き、上位足の方向に向かって水平線をブレイクしたところでエントリーをします。日足と4時間足で方向を見て、あとは1時間足と15分足でどの値幅を狙うかを決めていく感じです。

――初心者は順張りと逆張りのどちらがトレードしやすいと思われますか？

Kou 圧倒的に順張りだと思います。逆張りだと含み益になるまでの保有時間が長くなりやすいので、リスクが高まります。のんびりとポジションを保有するのであれば、順張りのほうがやりやすいと思います。

――初心者は逆張りを仕掛ける人が多いと言われていますが、そのあたりはどう考えていますか？

Kou 例えば、長期足で上昇トレンドが継続している中で、下位足がレンジや下落しているときにロングエントリーをするような、長期足の方向に沿った逆張りを狙うのは良いと思います。

一方で、強い上昇トレンドが出ているときに、値ごろ感やそろそろ下がるだろうみたいな形の逆張りをするのは危険です。

――根拠はないけど願望でエントリーしてしまうのはよくあります。

Kou 予想を外してもしっかりと損切りができるのであればまだ良いですが、「下がってほしい」「上がってほしい」みたいな気持ちが先行してしまうと、逆行しても「ここから戻すはずだ」という願望が大きくなり、損切りができずに傷口が大きくなりやすいです。

順張りの注意点としては、相場はずっと一方向に進むことはほとんどなく、調整が起きることがあります。トレンドフォロー中に調整が起きて損失を出してしまうのは仕方ないので、リスクを減らすためにも損切りを設定しておくことは大切です。

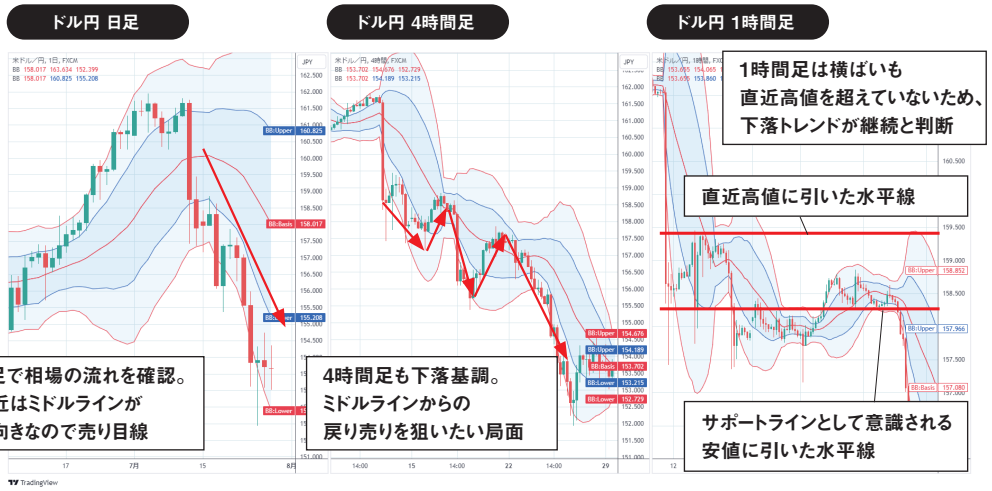
――利益確定と損切りはどうやって設定されていますか？

Kou 損切りはエントリーしたレンジの反対側に設定します。買いエントリーなら一つ前の安値、売りエントリーなら一つ前の高値に設定するという考えです。

利益確定は値幅で目標を決めていきます。値幅観測論のN計算を参考に、前回の上昇幅や下落幅と同じくらいを目標にするという形です。エントリーから反対の水平線に到達したら損切り、前回の上昇幅や下落幅と同じ

環境認識

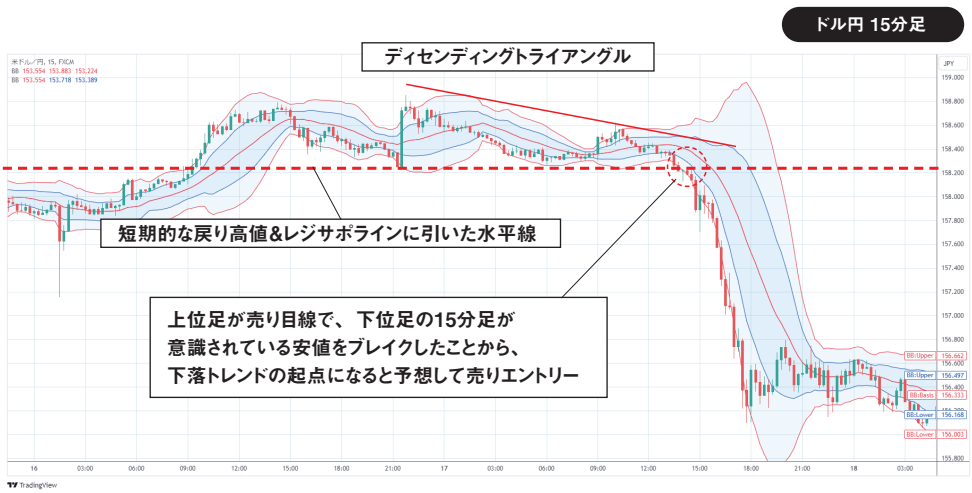
日足、4時間足、1時間足で方向性を確認し、買いか売りかエントリーする目線を決める



日足、4時間足、1時間足、15分足によるマルチタイムフレーム分析で相場の流れを確認します。ボリンジャーバンドのミドルラインの傾きを見て、上向きなら上昇傾向と判断して買い目線、下向きなら下落傾向と判断して売り目線で考えていきます。そして、押し安値や戻り高値などの重要な価格帯に水平線を引き、この水平線をエントリー判断の目安にします。

エントリー

15分足で高値もしくは安値に水平線を引き、ブレイクするところを狙ってエントリー



上位足で方向性を確認したら、15分足でエントリータイミングを計ります。押し安値や戻り高値、直近の高値・安値などの意識されやすい価格帯に水平線を引き、その水平線を上位足で確認した方向にブレイクするところを狙ってエントリーします。例えば、上の画像だと、上位足は下落基調なので売り目線と判断し、レジサポラインを下抜けすることで「ボリンジャーバンドのエクスパンション」「チャートパターン成立」が重なるのでブレイクエントリーをしていきます。

くらいの値幅に達したら利益確定をします。

――利益確定はN波動で見ていくということですね。エントリーから利益確定までの値幅が広めですが、伸びなさそうであれば途中で決済はしますか？

Kou ほぼ到達で決済することもあれば、トレールすることもあります。基本は設定したらほったらかしです。ただし、予想通りにエントリーした方向に動いていく中で、トレンドが反転しそうなサインが出たら逃げておくほうがメンタル的には気楽かと思います。

狙うトレンドの大きさにもよりますが、❶上昇を続けている途中で三尊など下へ向かうチャートパターンの成立
❷下位足のダウが転換する
❸下位足のインジケーターが逆を向くなど下位足の方向性を意識してみてください。

――エントリーよりも利益確定をするタイミングを決めるほうが難しいとよく言われています。

Kou 利益確定が難しいという人は多いです。何かしらの目安があれば分かりやすいのかなとは思いますが、トレンドの端から端までを取るのは基本的に無理なので、割り切るしかありません。ただ、トレードは割り切るのがすごく難しいですよね。

決済後にそのまま伸びていく場合もあり、そうなると次のトレードで「もっと粘ってみよう」と決済を我慢していたら経済指標発表や為替介入みたいなイベントが発生して逆行してしまい、一気に利益がなくなって後悔してしまうことはありがちです。

そして今度は「粘らなければ良かった」となり、利益がなくなるのが怖くてチキン利食いを続けてしまうようになってしまいます。

トレードで完璧を目指すのは無理なので、そこそこで割り切るしかないと思います。ただ、人間なので「もったいなかったな」とどうしても思ってしまうんですよね。人間のメンタルが関わってくるので、すごく難しいです。

勝ち負けだけにこだわらずリスクを減らすことが大切

――テクニカル分析をする上で、大切な心構えや準備は何だと思われますか？

Kou 心構えとしてはやはり完璧を求めすぎないということですね。頭から尻尾まで全て取ろうとするのではなく、「そこそこでいいや」という感覚を知っておくことが大切だと思います。

あとは、使っているロジックがちゃんとプラスになる可能性があるのかどうかを、過去の相場などで検証してしっかりと見ていくのも大事だと思います。

――手法を検証するのは重要ですか？

Kou 検証を軽視している人も多いですが、今のトレード方法が本当に優位性はあるのかどうかを見ていくために、検証して確かめるのは大切です。

例えば、何らかの商品を売るにしても、「良い製品ができたからさっそく売ろう」ではなく、最初は試作品やサンプルを作って試験などを繰り返し、実際に販売されるまでに何回も改良されていきます。FXもそれと同じで、今からやろうとしている手法が、本当に使えるところまで落とし込むことがすごく大事かなと思います。

――まずは手法を検証して、リアルトレードで使えるところまで改良していくことが重要なのですね。

Kou 検証の注意点としては、リアルトレードとの時間感覚のズレみたいなものがあります。

過去データでの検証だと、エントリーした後は利確と損切りのポイントがすぐに分かると思いますが、リアルトレードだとエントリーしてから利確や損切りまでの時間を待たないといけないので、日々の含み益や含み損にメンタルが左右され、耐えられなくなってしまう場合があります。

メンタルとの擦り合わせができていないと、検証して手法や取引ルールがある程度の優位性があると分かっても、いざリアルトレードで実践しようとしたら、損失への不安や恐れが邪魔をして思ったようにできなかったということになりがちです。

――実際に自分のお金を使ってトレードするので、メンタル面に左右されますよね。

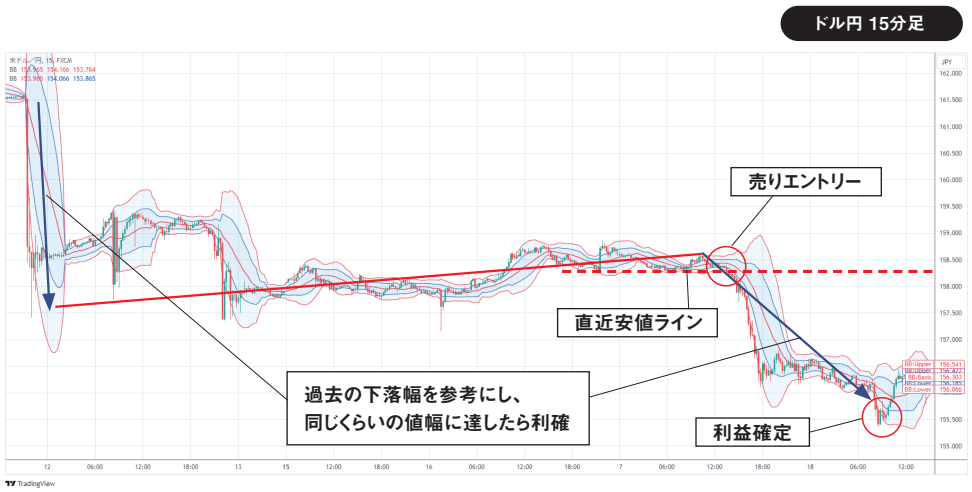
Kou リスクの部分についてはしっかりと把握する必要があります。いきなりリアルトレードをする場合は、最小ロットで始めて、実際のお金を動かす感覚を覚えるのなら良いと思います。

トレードを始めたばかりなのに、早く大きく儲けたいからと大きなロットを張って勝負するのは、大きなリスクです。どこにリスクがあるのかをちゃんと分かっておくのが事前の準備なのかなと思います。

トレードの目的はお金を増やすことですが、お金を減らさない努力をするのも増やすことと同じぐらい大事です。減らした分を取り戻すのはかなり難しいので、資金を減らさないためにも、

利益確定

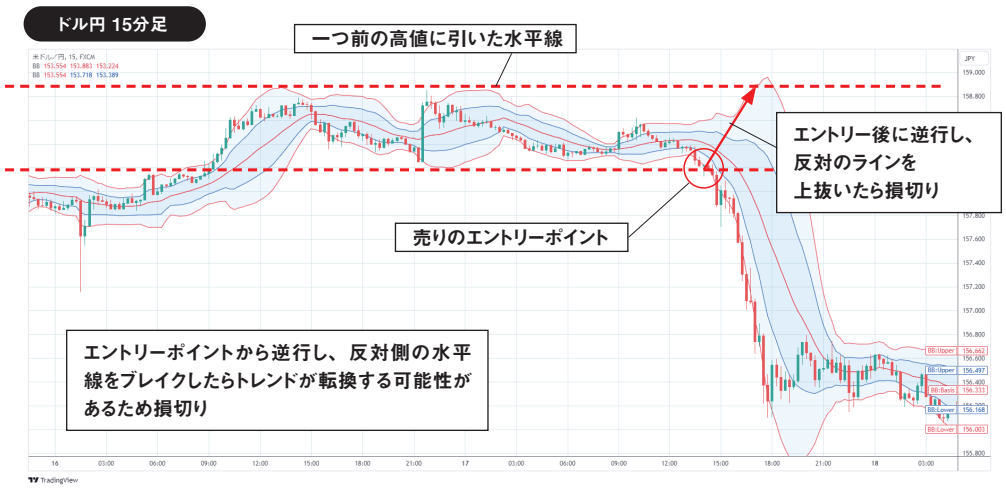
値幅観測論のN計算を参考にして、過去の上昇・下落と同じ値幅を狙う



過去の上昇・下落の値幅を参考にし、同じくらいの値幅に達したら利益確定。これは値幅観測論という考え方に基づいており、その中のN計算を使って利確ポイントを決定します。過去の上昇・下落の値幅と同じくらいの利益獲得を想定しておくことで、リスクリワードのバランスをある程度予想できるというメリットもあります。

損切り

エントリーポイントから逆行し、反対の高値・安値のブレイクで損切り



損切りはエントリーポイントの反対側に引いた水平線に設定します。水平線を引く基準は1つ前の高値もしくは安値です。これは反対の水平線を上抜くと、ダウ理論におけるトレンドの定義である「上昇トレンドは高値と安値を切り上げる、下落トレンドは高値と安値を切り下げる」が崩れ、トレンド転換のサインになるため。こういった場合は、損切りをして仕切り直します。

How to Follow Trends

リスクを限りなく減らしていくことがトレードにおいて大切ということです。

――リスクの部分をしっかりと理解しておくことは重要です。初心者がFXで勝てない原因は何だと思われますか？

Kou コツコツドカンは、損切りができないのとロットを大きくしすぎることが原因とよく聞きます。そのきっかけは、人間の感情の部分ですね。FXは少額からものすごく増えるみたいなイメージが染みついていますが、実際は簡単には稼げません。理想と現実の差が大きいと思います。

あとは、トレードはお金を増やすことが正解なのに、「勝った」「負けた」にフォーカスしすぎることはよくあります。勝率が良くてもリスクリワードが悪かったらお金は増えないですし、逆に勝率が低くてもリスクリワードが良ければお金は増えます。勝ち負けよりも利益をしっかりと取ることを重視したほうが良いと思います。

――コツコツドカンはリスクリワードの設定ができていないことが要因なのかもしれないと。

Kou 例えば、ずっと上昇トレンドで、とりあえずロングしていれば利益を出せる相場であっても、いつかは上昇トレンドが終了します。もし、トレンドが崩壊するところでそれまでの利益が無くなるような大きな損失を出してしまっても、それまでの上昇トレンドでずっと勝っていれば勝率90％のような高勝率になります。

たとえ勝率が90％でも、最終的にお金が手元に残らないということになるので、勝率とリスクリワードのバランスが重要です。勝率だけでも駄目だし、リスクリワードだけでも駄目ですね。

いろいろと試してみながら自分に合う方法を見つけよう

――ここまではトレード手法についてお聞きしましたが、初心者におすすめの通貨ペアは何だと思いますか。

Kou 初心者におすすめなのはユーロドルとドル円です。為替市場ではユーロとドルの取引量が圧倒的に多いので流動性が高く、レートがいきなり飛ぶみたいなことになりにくいです。多くの人が取引しているだけにテクニカルも効きやすいと思うので、分かりやすい通貨だからこそ初心者が取引にするのにおすすめです。

――初心者でもマイナー通貨を取引してみたい人はいると思いますが、あまりおすすめはしない感じでしょうか？

Kou マイナー通貨はスプレッドが広がりやすいというデメリットがあり、スプレッド負けになりがちです。

例えば、ドル円で勝てているロジックでも、マイナー通貨だとスプレッド分で負けてしまうみたいなことが起きやすいです。初心者はあまりスプレッドを気にしない人もいますが、意外とスプレッドは馬鹿にできないです。マイナー通貨はリスクを分かった上で取引するのであれば良いと思いますが、基本的にはメジャーなユーロドルやドル円がおすすめです。

――メジャー通貨ペアのほうが流動性やスプレッド面で取引しやすいということですね。最後にこれからFXを始める人や初心者に向けて、一言お願いします。

Kou トレードでお金を増やす方法はいろいろあります。コツコツと取引を続けて利益を積み重ねていく方法があれば、ハイレバレッジで一発を狙う方法もあり、人によって考え方もさまざまです。正解はないので、いろいろやってみて経験を積むのがすごく大事だと思います。

例えば、スイングトレードだとトレンドに乗りやすくて勝ちやすいという人もいれば、逆に含み損が怖くてポジションを長期間持てない人もいます。自分に合っている方法や自分が続けやすい方法を見つけることがトレードで利益を出していくには何より大切です。

ただし、どんなやり方にしても、勝率とリスクリワードのバランスと資金管理についてはしっかりと理解しておきましょう。あとは、自分が行っているトレードを言語化できるようになりましょう。言語化できる＝自分がやっているトレードを本当に理解していることなので大切です。

――確かに性格的な部分で得意な手法や苦手な手法はありますよね。

Kou エントリーの回数もある程度ないとイライラして精神衛生上よくないという人もいるので、自分の性格を把握するのも重要です。それは実際にトレードをやってみないと気がつかない部分だと思います。

だからこそ、スキャルピング、デイトレード、スイングトレード、少額でハイレバ運用、多額資金でローレバ運用など、いろいろと試してみて、自分が長期的に続けられる方法を探していくことですね。そして、一度決めたら継続して経験を積んでいくことが、トレードを上達するために一番大切です。



実戦例

日足と4時間足で上昇トレンドと判断し 15分足で高値ブレイクのタイミングを狙う

ドル円 日足



ドル円 4時間足



ドル円 1時間足



日足と4時間足はボリンジャーバンドのミドルラインが上に傾いているので上昇傾向と判断し、ロングのエントリーを考えていきます。一方で、1時間足はローソク足が横ばいに推移しています。上位足では上昇トレンドが継続しているため、直近の高値をブレイクしたら上方向に勢いが出やすいと予想し、15分足でエントリータイミングを考えていきます。

ドル円 15分足



15分足で直近高値と1つ前の安値に水平線を引き、直近高値をブレイクしたタイミングで買いエントリーをします。損切りラインはエントリーポイントから反対側にある1つ前の安値に引かれた水平線に設定します。上の事例ではエントリー後は予想通りに上昇を続けたので、以前の上昇幅を参考にし、同じくらいの値幅まで上昇したところで利益確定をします。

インタビュー日◎2024年7月23日

［特別インタビュー］

Kou@ベーシストFX手法研究家

聞き手・本文◉佐野雄二

ダウ理論を軸にブレイクアウトを狙うトレンドフォローは、シンプルにして実践しやすい王道の手法。裁量トレーダーとして成功を掴んでからも、初心者に向けた発信に日々積極的なKouさんに、現在のスタイルに至るまでの道程や、彼の手法を用いたエントリーから決済までの流れをお伺いしました。理論に基づいた堅実なスタイルは、裁量トレーダーのお手本の一つであるといえます。



Special Interview

相場を〝縦と横〟で読む
時間と値幅に基づく
ブレイクアウトを駆使する

王道戦略

Profile

Kou（こう）

物理士トレーダー。トレード開始当初は期待通りの成績を挙げられなかったものの、学者にふさわしく確率論や統計学を駆使して検証と実践を繰り返した結果、2020年に10万円を7週間で1000万円以上に増やす。

Web

X（旧Twitter）：@BassistFX_Kou

Blog：https://fxshuhou.com/

YouTube：https://www.youtube.com/channel/UCGafJzzEfh435ZdvCEU_TeA

Instagram：https://www.instagram.com/kou.trader__/



駆け出しの頃は負けていた情報発信に努める理由

――「8週間で元手10万円を100倍にした『科学的FX神トレード』」を拝読しました。どういった経緯で出版に至ったのですか？

Kou KADOKAWAさんから連絡があり、連絡に気づくのが遅れてしまっていましたが、その後のやり取りを経て出版させていただく流れとなりました。文字数や図版の枚数に制限がある中で、できる範囲のことをやらせてもらいました。

――Kouさんは日頃から、初心者向けの発信を盛んにされています。本を出そうと思ったのも、その一環ですか？

Kou 僕自身、スタートして一気にやられて、お金を失っていました。情報があまりに溢れすぎていて混乱していたのが要因の一つでした。

今は詐欺も多いですし、本当に有益な情報を吸収できないままFXの世界に足を踏み入れた結果、「少額でハイレバトレードを繰り返して全損する」「1分足でエントリーサインを追いかけて全然勝てない」「せっかくスタート地点に立ってもいざ始めるためのお金がない」という人を見かけてきました。そういった現実を前に、まとまった情報を発信したいと考えたのが、出版のきっかけでした。SNSでよく見かける爆益報告などは心を惹きつけるインパクトがありますが、そういうものに惑わされず、基本的なスキルを身に着けた状態でスタートラインに立って、最終的に負けないようにトレードを始めてほしい、という思いを持っています。

FXは甘い世界ではなく、プロと初心者が同じ土俵に立ちます。そういった場で重要なのは、お金を増やすことよりも減らさないことです。厳しい相場で生き残るのに役立つ情報を発信してきたつもりです。

――Kouさんご自身がFXを始めたきっかけは何だったのですか？

Kou お金と自分の時間を確保するためというのもありましたが、仕事のストレスも負担になっていました。職場環境がだんだん悪くなっていき、とりあえず仕事を早く辞めたいと思っていました。FXを始めるハードルが低かったのが大きいですね。

トレードを始めたばかりの頃はお金のことばかり頭にあって、トレードの検証をあまりしていませんでした。目の前で動いているチャートがお金に見えていたので、チャートが動いている以上「トレードしなきゃ」と気持ちが焦りましたし、お金を増やすためにはとにかくエントリーするしかないと考えて、ポジポジ病も患いました。

なんだかんだでちょこちょこ利益は出していたんですが、結局はコツコツドカンで資金を減らしていました。1回も勝てずに負け続けているのであれば、もっと検証なり何なりやったと思うんですが、中途半端に勝っていたせいで、振り返りをせずに惰性で続けて、ダラダラとお金を失っていました。

――現在、ご自分がトレードを検証するときに重視することは何ですか？

Kou やることがそんなに変わっていないかどうか、つまりロジックそのものがぶれていないかをよく見ています。あとは相場環境の見方を振り返ることも重視しています。

ダウ理論軸のトレードはまず上位足からMTF分析

――トレードスタイルはどのスタイルに最も近いですか？

Kou 最近の相場だとスキャルピングが一番近いかもしれません。一日に1～2回ぐらい、チャンスがあればその時間に集中しますが、合わなければやりません。あとは、もっとロットを落としてポジションを積み増ししてスイングもするんですが、ヘッドラインにかなり振り回される相場だと、デイトレは難しいと思います。

――2025年の相場は、ちょっとした要人発言ですぐに揺れがちですね。

Kou 日中に含み益が出ていたのに、夜になったら全戻ししているケースも割とあります。今はデイトレというよりは、もう少し短めの時間軸で取り組むトレードや、方向感を決めてゆったり構えていくもの、という風に分けています。

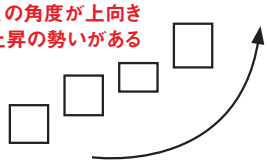
数日から一週間ポジションを持つゆったり目のデイトレぐらいが基本スタイルなんですが、そこは相場環境を見ながら臨機応変に対応しています。マルチタイムで見たときに、どこのトレンドを狙うかだけを事前に決めている感じです。その狙おうとしているトレンドが本当に狙えるかどうかを、上位足

図1

4時間足の移動平均線（MA）を重視

移動平均線は位置と傾きが大切

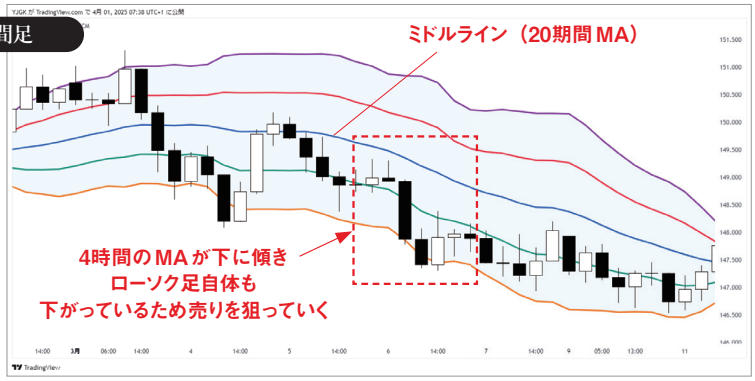
MAの角度が上向き
＝上昇の勢いがある



移動平均線は、単に価格の平均を示すだけでなく、その角度とローソク足との位置関係で「トレンドの方向性と勢い」を判断する材料になります。左図の場合は、勢いのある上昇トレンドと判断できます。

ボリンジャーバンドでトレンドを見ていく際は、中心線であるミドルライン（20期間MA）を見るのが基本になります。4時間足のミドルラインが下向きに傾いている場合、基本的には「売り優位」と判断します。以下のチャートでは、ミドルラインが下向きに転じ、ローソク足自体も下がってミドルラインより下で推移しているため、目線を下に向けて売りを狙っていきます。大まかな方向感を掴めたら、エントリーするタイミングを狙うために下位足もチェックしていきます。

ドル円　4時間足



☑check!

ボリンジャーバンドは、価格の平均（ミドルライン）とその上下にあるバンドから構成され、トレンドの方向性や、相場のボラティリティを視覚化できるテクニカル指標です。

の環境から見ていきます。

――トレードの流れについて教えてください。環境認識はどのように行っていますか？

Kou　ダウ理論が自分の中の軸になっています。今のトレンドや方向感を把握していくために、マルチタイムフレーム分析を行います。月の頭には月足をチェックし、週の頭に週足をチェックします。

デイトレをするときは基本的に日足の確認から始めて、4時間足、1時間足、15分足をメインに見ています。移動平均線とボラティリティを見られるので、20期間のボリンジャーバンドを、±1σと±2σを表示して使っています。4時間足のMA（移動平均線）の傾きを重視していて、トレンドに対して順張りになるように、1時間足、15分足のダウの目線とMAの傾きをチェックしています。

4時間足が下を向いていて、ミドルラインの20MAも下を向いていれば売れるかどうかだけを考えて15分足の方向感の一致を狙うことになるんですが、結局は方向感が合っていても、単にブレイクに乗ったりすると、損切りが引っかかってから伸びていったり、予想していた以上に伸びなかったりします。私は相場の動きにかかる時間の長さ（横軸）も見ていて、あるトレンドが2時間かけて形成された場合は、その後に形成されたレンジの時間も、同程度の長さを経てから次のブレイクが起こると考えます。この周期性を観察して、無駄なエントリーを避ける判断をしています。

――エントリーはどうされていますか？

Kou　基本的には順張りで、15分足でブレイクアウトを狙います。月足、週足、日足という大きい流れで方向感を掴んでいって、直前のトレンドの横軸を見ます。下降トレンドなら15分足で高値と安値が切り上がって上昇の流れに転じていれば、その後再び下げに転じるタイミングを狙って、戻り売りを仕掛けます。また、上昇トレンドならば、一度の上昇を確認してから、次にできるレンジを待ちます。その際には、上昇にかかった時間と、レンジの継続時間を比べてから順張りします。短すぎるレンジは、早い段階のエントリーを避けています。

例えば、図2のチャートで挙げたよ



図2

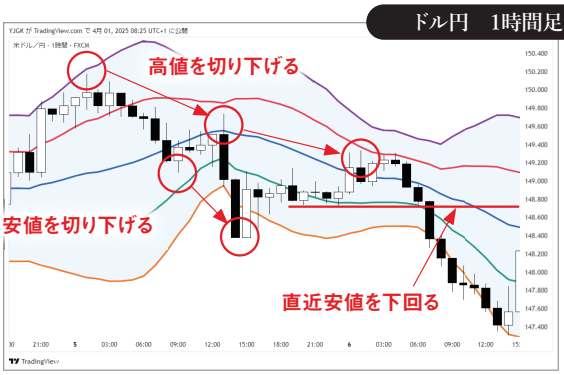
短期足の逆張り、停滞、ブレイク狙い

マルチタイムフレーム

4時間足	下降
1時間足	下降
15分足	上昇からの下降

15分足を見ると、一時的に上昇していた短期足の流れが崩れ、安値を割って下降に転じています。こうした局面では、押し目買いを狙っていた短期トレーダーの損切りが一気に発動しやすく、その勢いで下落が加速することがあります。戻りを待って高い位置で売るのではなく、直近安値のブレイクを起点に下げが強まるタイミングを狙うのが、この戦略の特徴です。値動きにメリハリがあるため、エントリーポイントを客観的に判断しやすいのもメリットです。

ドル円　1時間足



ドル円　15分足



うな局面です。図1の4時間足では、高値と安値を切り下げながら下降トレンドを形成しています。このような環境下で、仮に15分足が一時的に高値を超え、短期的に上目線に転じたとしても、上位足のトレンドが下降であれば、戻り売りを狙うチャンスになります。下降トレンドであれば、いったん直近の安値を割った後に戻しが入る場面でポジションを仕込むのがセオリーです。上位足で下降トレンドが出ていて、下位足でダウの転換が起こって上目線になっているときは、短期で押し目買いを狙っているトレーダーがいる環境です。こうしたケースでは直近の安値からそのすぐ外側に短期勢の損切りがあるはず。そうした損切り注文が集中しているポイントは、価格がそこを抜けた瞬間にトレンドが加速するきっかけとなることが多いのです。

今回のケースは4時間足、1時間足が下降トレンドで、ショートを狙うべき環境です。安値を更新した後の反発で短期的に上昇しています。15分足で見て、この短期の上昇トレンドに現れたダブルトップなどを見て、MAに傾きがついてきて、短期の上昇が否定されだした後の安値割れが狙い目です。そして、エントリー前の安値まで下げてきていた分の値幅を取りに行きます。そうすれば、損切り幅も狭く、リワードも見込めます。

――こうして見ると、2025年のドル円相場は上下が激しいですね。

Kou　本当に激しいです。高値を切り下げながら来てはいるんですけど、反発も多いので、不用意なエントリーはすぐ損切りに引っかかります。全体の環境があまり良くなくて、とてもやりにくいと思います。146円台で底を打った感があって、下落幅の分の調整が入っていくと見ています。こういう相場では、デイトレより、もう少し細かめのトレードが良いと思います。

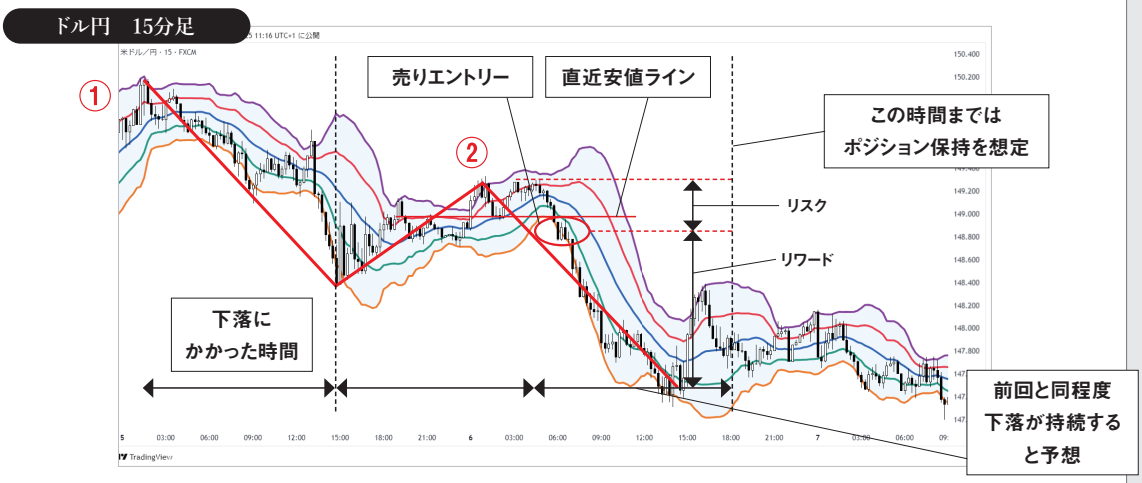
値幅を見ていればエントリー前にリスクリワードが分かるので、そこが悪ければやらないほうが良いという判断もできます。

――リスクリワードはどれぐらいに設定されていますか？

Kou　平均すると1：1・67ぐらいです。ムラが多少ありますが、1を切るようならエントリーはしません。デイトレなら1・5前後で十分と思いま

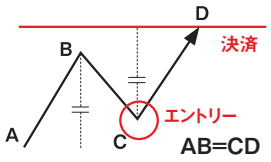
図3

値幅観測論のN値幅を意識した利益確定



Kouさんは、利益確定の目安として「N値幅」を重視します。Nの起点をどこに置くかは環境によって異なりますが、今回のケースでは、前の波である①と同じだけの値幅が②で出ることを前提にしています。また、値幅だけではなく、下落にかかった時間（横軸）にも着目します。前回の下落と同じくらいの時間を経た後に再度動き出すケースが多いため、値幅（縦軸）と時間（横軸）のバランスを見ながら、無理のない出口設定を行っています。

値幅観測論のN計算



N計算とは、最初の値幅（AB）と同じ値幅（CD）を目安に次の値動きを予測する考え方です。A→Bで調整が入って押し目となり、C→Dの再上昇でAB=CDとなる価格帯を、利益確定の目安と考えます。

すが、もう少し大きな値幅を狙うときは1：4や1：8にすることもあります。ただ、そういうチャンスは多くないです。デイトレベースだと、1・6前後あれば十分でしょう。

――利益確定も教えてください。

Kou　N値の値幅を取るのが目標です。最初の値動きと同じだけの値幅を次の波でも狙うわけですが、Nの起点がどこなのかを迷う人が多いと思います。安値をブレイクした位置を起点と考えるのか、直近の高値を起点と考えるのか。そこは相場環境ありきで判断します。図3のケースなら、ダブルトップのネックラインを割って、MAが下向いてきた後の下降トレンドの持続時間（横軸）を一つの目安として値幅を取りにいきます。Nの値幅とその周期性、つまり縦軸と横軸のバランスを見るわけです。

日足がレンジで4時間足も横這い、1時間足だけが下に向かい始めた所で15分足が下にブレイクしても、あまりポジションを握らないほうが良いでしょう。長期目線で見ると、方向感があいまいなためです。時間足によって方向感が異なる場合は、小さな値幅でリスクリワードのバランスが取れているかどうかを判断基準にしています。あくまでも重視するのは、上位足の環境です。

方向感が合えばいい大事なのは環境認識

――まずは環境認識、その後に手法ですよね。環境認識が間違っていなければ、そんなに大負けしないんじゃないかと最近感じています。

Kou　おっしゃるとおり、環境認識で方向感が合っていれば、やはり負けにくいと感じます。ざっくり言うと、順張りと逆張りって「順張りの順張り」と「順張りの逆張り」と「逆張りの順張り」、あとは「逆張りの逆張り」という4パターンがあると思っていて、その中で「逆張りの逆張り」を避けることが大切だと考えています。

トレンドの転換点はどこかでやってくるので、逆張りの逆張りでも合うタイミングっていうのはあると思うんですけど、基本的にリスクリワードが良くありません。順張りの順張りでもいいし、順張りの逆張りでもいいし、逆張りの順張りでもいいし、環境に合わ

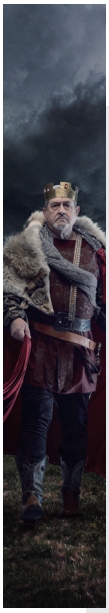


図4

エントリーの順と逆、組み合わせの妙

①順張りの順張り

トレンド方向に対し、押し目や戻りを待たず、ブレイクや継続を見てエントリーする。
➡上位足も下位足も同じ方向
➡（例）4時間足が上昇トレンド中に、15分足が高値を更新する流れにそのまま乗る
➡最もセオリーどおりで負けにくい。

②順張りの逆張り

トレンド方向には一致。一時的な逆行で（押し目・戻り）でエントリーする。
➡（例）4時間足が上昇トレンド中、15分足でサポート反発を狙って買う
➡タイミングは逆方向だが、狙っている方向はトレンドどおり

③逆張りの順張り

レンジや転換点で、トレンド転換後の初動に乗るエントリー。
➡大きな流れはまだだが、短期足で明確な方向が出てきた場面
➡リスクは高めだが当たれば伸びる、トレンドの先取的な動き。

④逆張りの逆張り

全体の流れに逆らい、なおかつ短期的な流れにも逆らうエントリー。
➡（例）下降トレンドの中で、「下がりすぎたからそろそろ上がるだろう」と買いエントリーする
➡リスクリワードが悪く、難易度が高い。

せたやり方も大事ですが、それ以上に「どのやり方に決めるのか」という軸を持つことのほうが大事です。

僕は4時間足のMAの傾きを重視しているのですが、その方向はすぐには逆行しにくいと感じています。方向感が出たらキープしておけば負けにくくなってきます。その中で逆張り気味にポジションを仕込むこともあります。いわゆるプレピラミッディングです。ポジションをあらかじめ分散して、リスクを許容する、順張りの逆張りですね。4時間足で見て、価格がMAから大きく乖離しているときは無理にエントリーせず、伸びしろがある環境で入っていくようにしています。

一方向に動ききった後は順張りで入るのが難しくなります。そういった場面では、短期で狙うか触らないようにするかという判断ができます。僕がボリンジャーバンドを見ている理由は、方向感だけでなく、直近のボラティリティも把握できるからです。例えば、4時間足でバンド幅が収縮した後にバンドが拡大してボラティリティが上がってくると、エントリーのタイミングを見極めるのが難しくなることがあります。ただし、ミドルラインに明確な傾きがあり、バンドも大きく広がっている状態ならば、すぐにはトレンドが止まりません。トレードスタイルによって違いはありますが、トレンドが出た方向にとりあえず順張りで乗るように心がけるだけでも、トータルの勝率とリスクリワードのバランスは破綻しにくい環境になってくるはずです。

また、「この辺に重要なラインがありそう」とか、150・00円のようないわゆる「キリ番」とかはあまり気にしていません。それよりも、長期の時間足で直近のレジスタンスやサポートを重視しています。

例えばエントリーした後に、「この辺で反発しそう」と、直近の高値や安値をエントリーや損切りの目標にすることがありますよね。僕の場合は、あくまでもMAの傾きを基準にして、長期の方向感が出ていれば、その高値・安値をブレイクして狙った値幅を取れるという前提でエントリーするようにしています。

こうした考え方ができるようになるためには、「何を基準にラインを引くのか」という視点が欠かせません。僕

はそこをダウ理論で見ています。押し安値や戻り高値のラインをとりあえず引いておけば、離れたラインは気にしません。万が一、大きく逆行してきたら、そのときは損切りすればいいだけです。

どんなやり方にもメリットやデメリットはあります。「あのとき別のやり方をしていればよかった」と考えを変えてしまうのは、やっぱり良くないです。とにかくトレードしやすい環境かどうか、4時間のダウの目線とMAに傾きが出てるかどうかで、その状態で1時間足以下の戻りを待つというか、調整を待っていきます。

――いきなり全部やろうとすると大変ですよね。まずは環境認識に狙いを絞り、方向感が合っている実感が持てることが大事でしょうか。

Kou　そうですね。僕は方向感さえ合っていれば、エントリーもそこそこで良いと思っている派です。細かいやり方はあまり気にせず、長期の方向感を捉えることができていれば、利益を出せると考えています。

―方向感に逆らうと、利食いが狭く、損切りが広くなりがちですし、取引自体が難しくなりますよね。

Kou　そうですね。ですから、エントリー手法の細かい部分よりも、やはり今の環境を見て方向感を見定めることです。目の前にある相場がレンジなのか、それともトレンドなのかを見極めることも含まれます。

――環境認識だけしていくトレーニングは有効でしょうか。

Kou　アリだと思います。やり方としては、複数の時間足のMAの傾きと、ローソク足の位置関係を見るのが基本です。MAが上向きでローソク足がその上にあるなら「上昇傾向」、その逆なら「下降傾向」。高値・安値の切り上げ・切り下げ、つまりダウ理論の目線も意識します。各時間足のトレンドがどうなっているのかを確認します。

例えば、4時間足が上目線で、1時間足が下目線だった場合を考えましょう。上位足では上昇しているのに、短期足では下げている。このような状況では、戻り売りしたい人と押し目買いしたい人が入り混じっていて、方向感が出にくいはずです。ブレイクしてもすぐに戻ってきたり、結局レンジになったりすることが多いんです。なので、方向感がまだ一致していない場面では、無理にエントリーせず静観します。その代わり、各時間足の目線が揃ったタイミングを狙っていくのが、僕のやり方です。

――方向感を見る目的でいろいろな通貨ペアを見たりして、全体を見る感覚を養うほうが、トレードが上達する気がします。

Kou　それはあるでしょう。ただ、通貨ペアも見すぎると通貨間の相関も気になってきますよね。なので、単に数を見ればいいというよりも、見ている通貨の中で相関関係がどうか、チャートの縦（値幅）と横（時間）のバランスはどうか、波形が綺麗か、ジグザグの形が見えやすいかといった視点が大切です。

そうやって見ていくことで、波形が汚かったり、方向感がはっきりしないような「分かりにくい相場」には手を出さない判断ができるようになります。結果的に無駄なエントリーを減らすことにつながります。

――簡単な環境から徐々に理解していくのが良いと思っていたので、正解っぽくて良かったです。

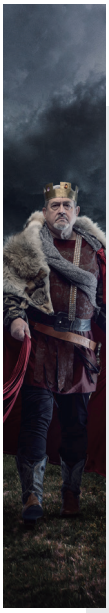
Kou　はい。本当にそれでいいと思います。買いが優勢なのか、売りが優勢なのかさえ分かっておけば、とりあえず大局的な方向感に従ってポジションを持つようにするといいでしょう。

――相場は一体化していますし、全部の流れは同じですが、まずは環境認識から、というのはあらゆる人におすすめできそうですね。

Kou　そうですね。ただ、もう一つ意識しておいたほうが良いのは、資金管理です。環境認識ができるようになっても、資金を入れすぎると、それだけでリスクが跳ね上がります。

――たしかに。思ったとおりやっても負けることは必ずありますし、そこに危機感が持てるのは良いことですが、ロットを張りすぎると、感覚が麻痺してしまうこともありますよね。

Kou　そうなんです。そうなると損失も受け入れられなくなってしまいます。やることが明確に定まっていない状態では、口座にお金を入れること自体がそもそもリスクになると僕は考えています。結局、方向も決めずに無駄エントリーをして「ポジポジ病」を患い、資金を減らすだけになってしまいます。



リスク管理をちゃんとできるようにならないと、何のために資金を投じたのか分からなくなってしまうでしょう。

裁量トレードに大事なのは自分の生活への納得感

――裁量トレードをやっていて「難しい」と感じることは何ですか？

Kou　正解がないことですね。日本人には特に多いと感じるのですが、一つの問いに対して確実な答えを欲しがることがよくあると思います。

どんな方法でも、環境によっては上手くいくときもあれば全然ダメなときもあります。また、FXに負けはつきものですが、一つ負けるたびに「こうしたら良かった」「こっちのほうが良かった」と一つの手法を疑いすぎると、軸がブレて、自分が目指しているものを見失ってしまうと思います。

――自分のルールがブレないようにしていても、ロジック自体が相場に合わなくなればいつかは変えなければいけなくなるでしょうし、難しいところですね。

Kou　負けている共通点を見つけて、合わない相場を避け、合う相場だけで勝負していければ良いと思います。裁量トレードだと実際に取引するのは人間ですし、人によって、性格や資金量や生活環境も異なります。

チャートを見られる時間帯も、普段の生活のストレス度合も千差万別ですよね。例えばポジションの保有時間一つとっても、「スイングが気楽でいいや」という人もいれば「ポジションを持ったままでは寝られない…」という人もいます。スキャルピングでサクッと取りたいと思っても、家族との時間も考えると難しいこともあるでしょう。また、子どもができたり、職場の配属が変わったり、働き方が変わったり、環境の変化によって、トレードのやりやすさも変わってきます。

ずっと続けてきたやり方ができなくなる日も恐らく来るでしょう。だから、勝つために最適な手法を見つけるよりは、これから先ずっと自分がやり続けられるかどうかを納得できることのほうが大切だと思っています。

自分の生活に対して納得感がないと再現性も落ちていき、上手くいかなくなります。過度なこだわりを持たず「そこそこでいい」という距離感を大事にするのが、裁量トレーダーには必要だと考えています。

――裁量トレーダーの読者に向けて一言をお願いします。

Kou　裁量トレードは難しいですよね。爆発力はあるんですが。スキルを磨き続けなければいけません。お金ばかり意識すると、IQが下がってしまうというか、マイルールを破ってしまう可能性も上がります。本にも書いたのですが、「お金の先に何があるのか」を考えてもらいたいと思います。

FXで勝ちたいのは当然でしょうが、そこから先で何がしたいのかを忘れないようにできると、FXをやる意義が見えてくると思います。長期的な目標ができていれば、今のトレードでやるべきことも分かってきます。そうすれば、ポジポジしている意味もないと自分を客観視するいいきっかけにもなるはずです。大事にしてもらいたいのはやはり「納得感」です。

「科学的FX神トレード」読了感想



review

外国為替編集部の佐野です。FXのトレードに完全な模範解答は存在しないものですが、分かりやすさ、実践のしやすさという「王道」を求めるトレーダーのニーズにぴったりハマる一冊であると思います。

王道が王道たる理由はその普遍性。この本に記されている手法は、トレンドフォローの基本に忠実なものです。本インタビューよりもさらに深く、Kouさんのトレードルールにも触れられています。Kouさんの手法を理解する上で必要なテクニカル分析の知識についても網羅されており、学んだ内容をドリル形式で復習できるようになっているため、FXを始めたばかりの初心者にもおすすめできる一冊です。

data

「8週間で元手10万円を100倍にした『科学的FX神トレード』94.6%の初心者トレーダーが勝利を確信したテクニカル分析の絶技」（KADOKAWA）
発売日：2025/02/15　定価：1,760円（税込）　全国の書店で発売中!

インタビュー日◎2025年3月11日